

第2 地域振興計画等の推進状況

広域振興局毎の4つの地域振興計画は、①中期計画に掲げた各分野の基本目標の達成に向けて、それぞれの地域の実情に合わせて現地・現場で施策・事業を推進していくための中期計画の「実行計画」という側面、②各地域の特性や資源を最大限活かしつつ、府域全域で希望に輝く地域づくりを進めていくための地域独自の「成長戦略」という側面の2つを併せ持った計画となっている。

このため、本項では、はじめに、各地域振興計画に盛り込んだ数値目標全体の進捗状況を分析した上で、4つの地域振興計画毎に、今後の主な課題と重点施策の取組状況、関連指標の動きを取りまとめた。

次に、京都市域における主要施策・事業の実施状況や「みやこ構想」及び「3つの京都づくり」の推進状況を取りまとめた。

1 地域振興計画関連指標の動き

地域振興計画に掲げた各指標の「数値目標」は、別途目標年次を定めるものを除き、2019年3月までの達成をめざすものであり、目標年次に応じた年度毎の参考年間目標を設けることで、各年度の実績が最終的な数値目標の達成に向けて順調に推移しているかどうかを確認している。

各分野の指標について、数値目標及び参考年間目標の進捗が低調、あるいは後退している分野は、それぞれの要因を分析し、課題を明らかにした上で、進捗率を向上させる取組が重要となる（第1-1中期計画関連指標の動きと同様）。

(1) 数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標

数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標*

- ・ 山城地域振興計画 50%
- ・ 南丹地域振興計画 70%
- ・ 中丹地域振興計画 65%
- ・ 丹後地域振興計画 63%

※参考年間目標達成指標割合

今回の調査時点で、参考年間目標を達成した指標は、2019年3月までに達成をめざす最終的な数値目標の達成に向けて想定どおり又は想定以上のスピードで取組が順調に進捗していることを表し、達成に至らなかった指標は、現在の進捗度合いでは目標年次における数値目標の達成が難しいことを示している。各地域の状況は以下の表-3のとおりである。

◇表-3：数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標の割合

分野	指標数	2016年(度) 実績値 計測指標数 a*	参考年間目標 達成指標数 b	参考年間目標 達成指標割合 b/a
山城地域振興計画	27	38	19	50%
南丹地域振興計画	27	27	19	70%
中丹地域振興計画	17	17	11	65%
丹後地域振興計画	20	19	12	63%
合計	91	101	61	60%

※の考え方については、P.4表-1の注意書きと同じ

(2) 数値目標の進捗状況

数値目標※を上回った指標

- ・ 山城地域振興計画 32%
- ・ 南丹地域振興計画 37%
- ・ 中丹地域振興計画 29%
- ・ 丹後地域振興計画 47%

※2019年3月までに達成をめざすもの

数値目標は、2019年3月までに達成をめざすものであり、計画期間（4年間）の2年目に当たる今回の調査時点において、既に数値目標を上回った（「減少」をめざす指標の場合は、数値目標を「下回った」）場合は、最終的な数値目標の達成に向けて想定以上のスピードで取組が進捗していることを示している。各地域の状況は以下の表－4のとおりである。

◇表－4：数値目標を上回った※¹指標の割合

分野	指標数	実績値 計測指標数 a※ ²	数値目標を 上回った 指標数 b	数値目標を 上回った 指標の割合 b/a
山城地域振興計画	27	38	12	32%
南丹地域振興計画	27	27	10	37%
中丹地域振興計画	17	17	5	29%
丹後地域振興計画	20	19	9	47%
合計	91	101	36	36%

※¹及び※²の考え方については、P.6表－2の注意書きと同じ

2 地域別の主要な重点施策の実施状況等

地域別の主な課題・重点施策の取組状況は以下のとおり。

なお、山城・南丹・中丹・丹後の各地域振興計画について、数値目標の達成状況を示すとともに、基礎資料として、「統計データ」、「施策指標」を添付した。

京都市域については、同エリアで京都府が展開する主要施策・事業の実施状況を掲載した。

(1) 今後の課題

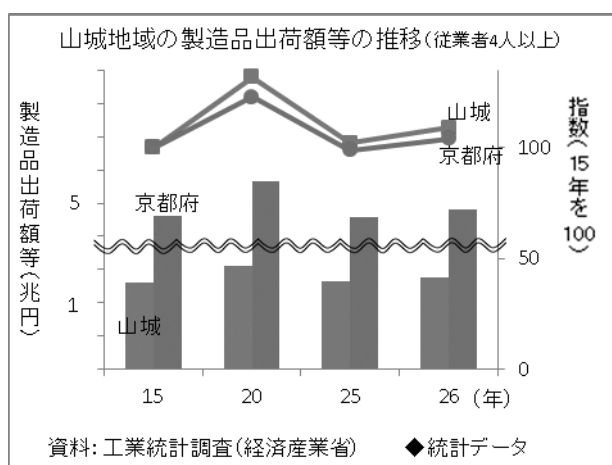
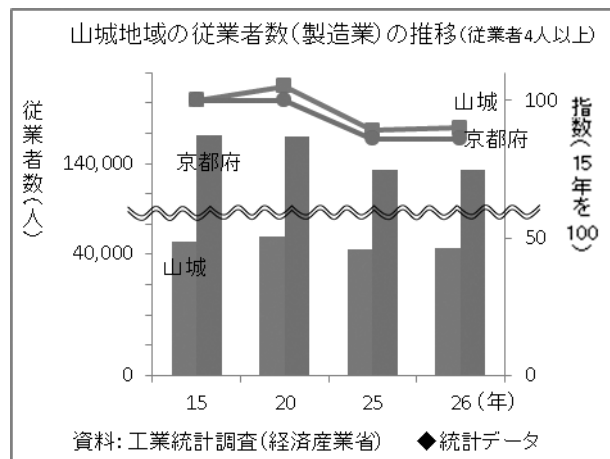
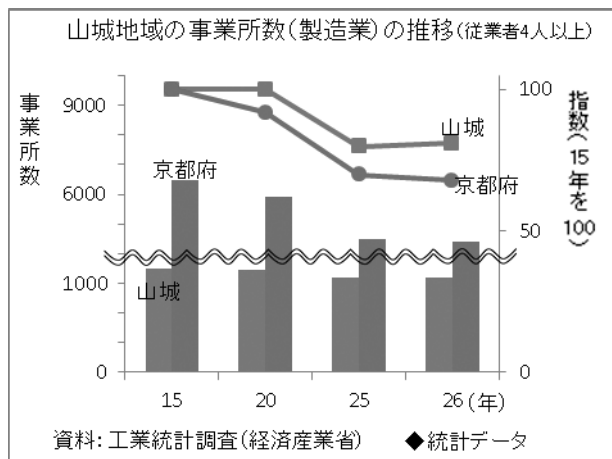
今後の課題 1

新幹線、新名神、JR奈良線複線化等の ポテンシャルを活かした産業の活性化

- 新名神高速道路の城陽～八幡京田辺間（3.5 km）が開通（平成 29 年 4 月）
→平成 35 年度、全線（大津～高槻間）開通予定
- 北陸新幹線の敦賀以西ルート（小浜～京都～松井山手～新大阪）の決定
（平成 29 年 3 月）
- JR奈良線の高速化・複線化第二期事業の推進（平成 34 年度開業を目標）
- 大型商業施設の誘致や国際的な物流機能等の導入を目指して、「城陽市東部丘陵地
整備推進協議会」が設置され、アウトレットモールの誘致決定など今後の東部丘
陵地の整備推進に弾み
- 「けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）」による共同研究プロ
ジェクト等の集積促進

【課題】

- ☆北陸新幹線、新名神高速道路、JR高速化・複線化などダイナミックな高速交通
網のハブ機能を活かした京都イノベーションベルトの拠点整備
 - ・学研・狛田東地区エリアの民間産業系開発の促進
 - ・南田辺西地区等の早期事業化
 - ・城陽東部丘陵地の各ゾーンの活用
 - ・北陸新幹線の延伸による経済効果を山城地域全体へ浸透させる新たな振興対策、
学研都市線整備の促進
（JR片町線の複線化、JR片町線と奈良線を結ぶ新たな交通網の形成）
 - ・新名神高速道路のアクセス道（宇治木津線、宇治木屋線、宇治田原山手線等）
の整備
 - ・JR奈良線高速化・複線化第二期事業に合わせた道路河川整備
- ☆産業振興や企業誘致とともに、人口減少を踏まえた人材確保対策
 - ・企業と地元就職希望の学生とをマッチングさせるプレジデントセミナーの開催
 - ・高校生を対象とした地元優良企業の職場体験
 - ・ふるさとワーキングホリデーによる若者の交流体験事業
 - ・人と企業を誘致するスマートワーク・イン・レジデンス事業
など、戦略的な人材確保対策が必要
- ☆京都認知症総合センター（仮称）の整備支援や特別支援学校開校に向けた取組推進
- ☆集中豪雨、大規模地震等に備えた災害に強いソフト・ハード双方の防災対策



企業誘致の状況について (H13~28)

地域	企業数	シェア (①/②)
山城①	128	57%
京都府②	225	—

※企業数は立地表明を含む

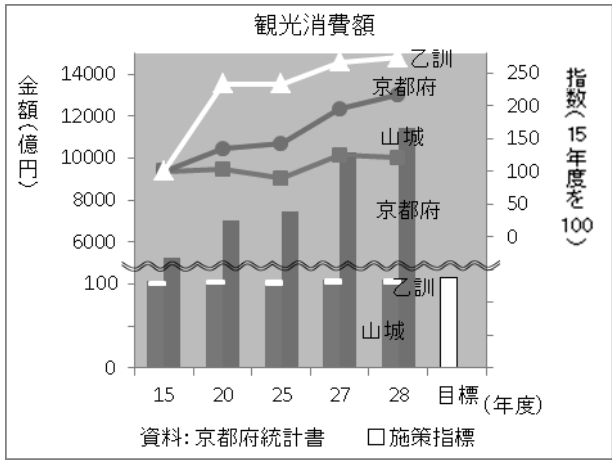
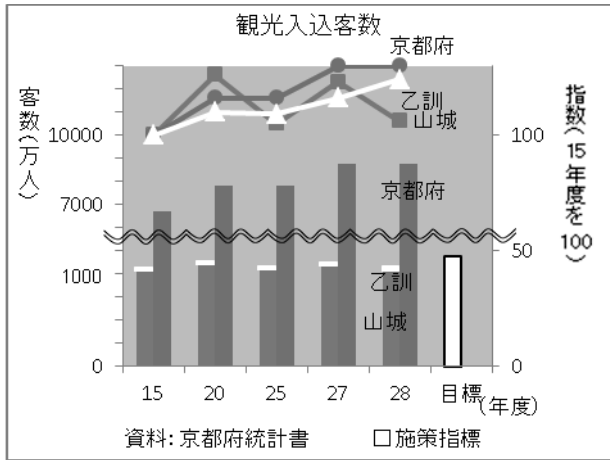
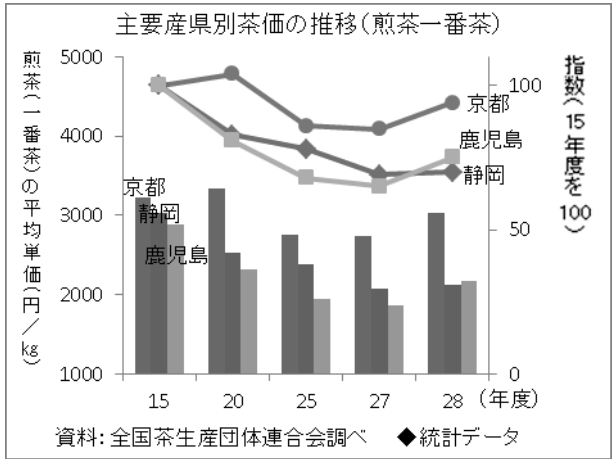
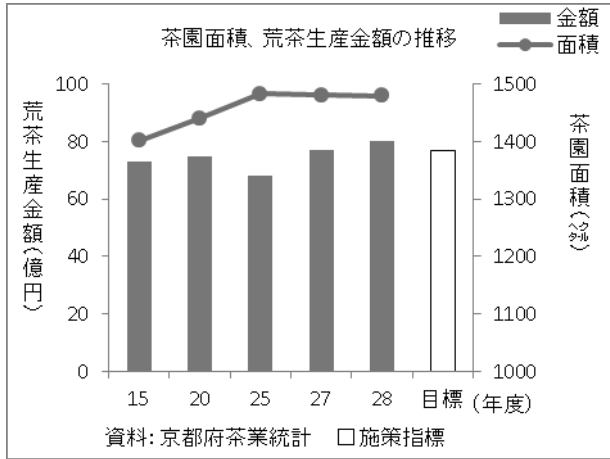
資料: 京都府調べ ◆統計データ

「お茶の京都」、「かぐや姫観光」等による地域づくりの推進

- 平成 29 年度は、「お茶の京都」のターゲットイヤーとして「お茶の京都博」を開催し、国内外の方々に本物の宇治茶に出会っていただくため、年間を通じて多彩なイベントを展開
- 地域間連携による観光地域づくりや産業振興を推進するお茶の京都DMO「京都山城地域振興社」が平成 29 年 3 月に設立され、着地型観光旅行商品の販売開始
- 石清水八幡宮の国宝指定、流れ橋の復旧工事完了、ツアーオブジャパン京都ステージの開催や「竹の里・乙訓」と「もうひとつの京都」を結ぶ大物産展、大山崎天下取り決戦祭り等の新たな取組が影響し、山城地域の平成 28 年の観光入込客数は約 1,383 万人（平成 27 年比 2.7%増）、観光消費額は約 200 億円（平成 27 年比 1.2%増）と微増しているものの、観光客の一人当たり消費額は 1,452 円（進捗率 60%）にとどまっている。平成 29 年 3 月には「さくらであい館」、4 月には道の駅「お茶の京都みなみやましろ村」がオープン
- 平成 28 年度は荒茶生産額が初めて 80 億円を超え、宇治茶の品質を高める「宇治茶 GAP」や茶園改修の関連工事の着工など、ソフト、ハード面の施策を推進
- 「京都・かぐや姫観光推進協議会」を設置し、乙訓地域の市町、商工会、観光協会及び京都府が連携して、観光振興を推進するための体制の整備や「京都・乙訓地域観光振興のためのプラットフォーム」を立ち上げ、地元住民を中心に乙訓地域の観光資源の掘り起こしなどを推進

【課題】

- ☆「お茶の京都博」を中心に、日本遺産「日本茶 800 年の歴史散歩」に関わる山城地域のさまざまな有形無形の資産価値の国内外への発信が必要
- ☆次世代型リゾートやホテル、個性ある農家民泊など滞在型宿泊施設の誘致
- ☆「お茶の京都博」のレガシーを引き継ぎ、2020 年のオリンピックイヤーでの「世界文化遺産登録」に向け、生産基盤や担い手対策はもとより、茶研の機能強化や「宇治茶」のプレミアムブランド化、お茶産業が他産業と連携するなど茶を中心とした総合産業化が必要
- ☆DMOを核とする「お茶の京都」や「竹の里・乙訓」かぐや姫観光による広域観光等の展開により観光入込客数及び観光消費額の増加を図り、地元食材としてやましろ農業の振興や農村地域の民泊施設の情報提供等、国内外から来訪する大交流圏の創出
- ☆野菜・農産加工品の共同直売所や出張・定期販売等による農福連携の推進



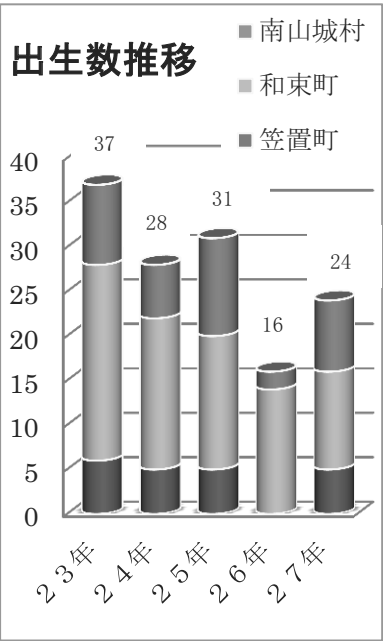
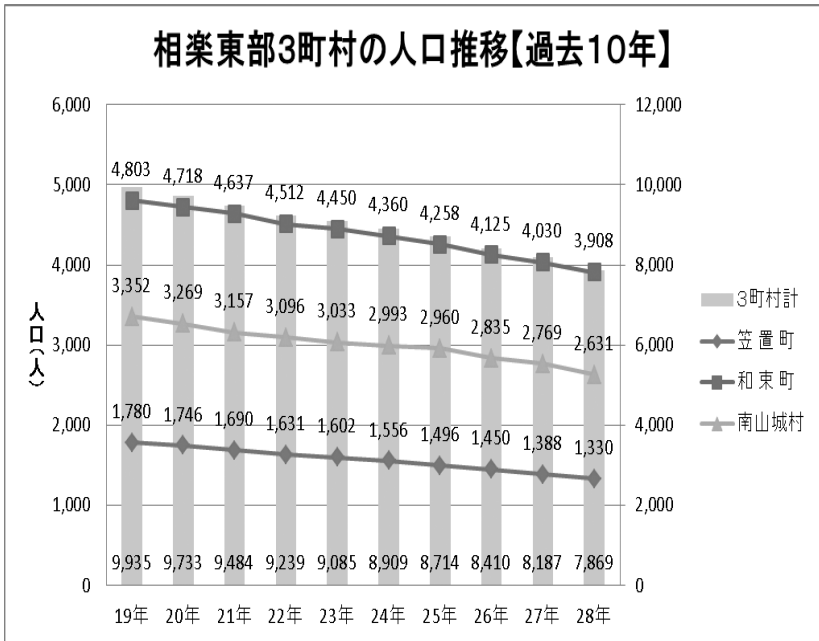
相楽東部の未来づくり
～相楽東部・木津右岸エリアで新たなライフスタイルを実現～

- 相楽東部3町村の圏域全体の生活環境の向上と農山村と都市が融合した新たなライフスタイルが実現できる理想郷を創造するため、3町村・相楽東部広域連合と府関係部局による「相楽東部未来づくり推進協議会」を設立（平成28年7月）、さらに、3町村と府の職員が知恵とネットワークを結集し、共同して地域振興、交流人口・定住人口の拡大につながる取り組みを提案・コーディネートするため「相楽東部未来づくりセンター」を設置（平成29年4月）
- 南山城村と笠置町が、三重県伊賀市と「定住自立圏の形成に関する協定書」を締結（平成28年10月）し、救急医療体制、広域観光、地域交通、子育て等の連携を推進
- 相楽東部への移住者数は、平成28年度は25名であり、京都府移住促進条例の特別区域指定（平成29年3月笠置町、和束町）を支援しさらなる指定区域の拡充を推進
- 地域交流や活性化を支援するため、国道163号北大河原バイパスの開通（平成28年8月）や「宇治木屋線（犬打峠）」の事業着手、また「道の駅お茶の京都みなみやましろ村」、「和束町観光案内所」の開設や、「笠置町サテライトオフィスワークスペース」（平成29年3月）などの拠点が整備
- 学研都市と相楽東部をつなぐ国道163号に広域バスを運行予定

【課題】

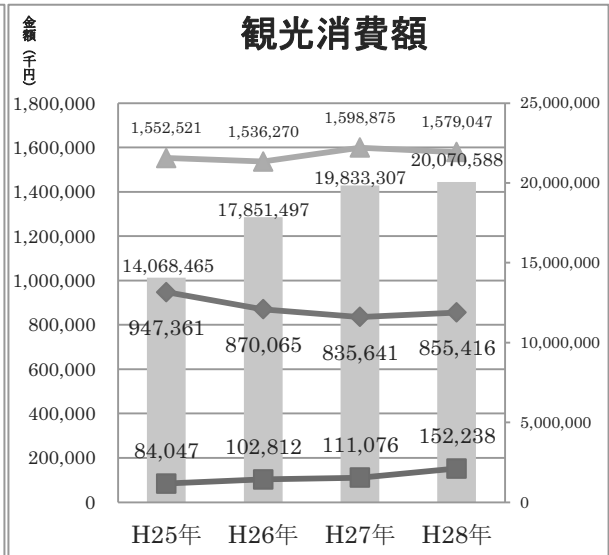
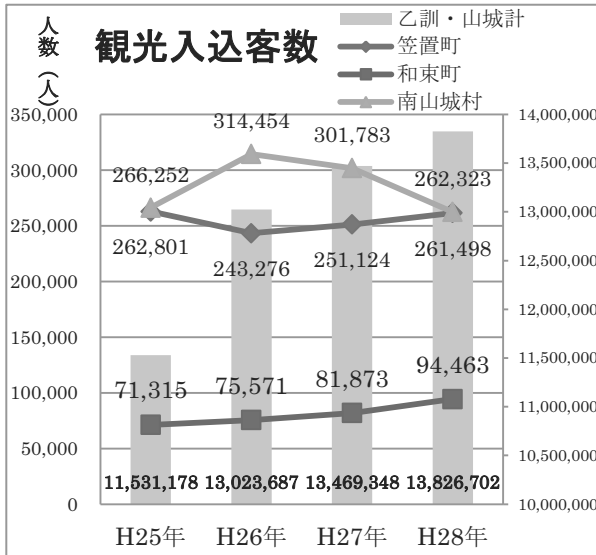
☆新名神高速道路全線開通と宇治木屋線犬打トンネル開通後の相楽東部地域の将来の姿を見据えたエリアマネジメントが必要

- ・人口減少エリアから新しい「豊かなライフスタイル」を創造・提供するエリアへの転換（平成28年度の相楽東部への移住者数25名、平成27年の出生数は24人（平成25年比7人減少）
- ・空き家バンク整備・農村体験提供や広域観光の推進等による交流人口の拡大
- ・子育て支援・高齢者支援や広域公共交通の利用促進対策等による定住対策の推進
- ・相楽西部（学研都市）との諸施策の連携の展開



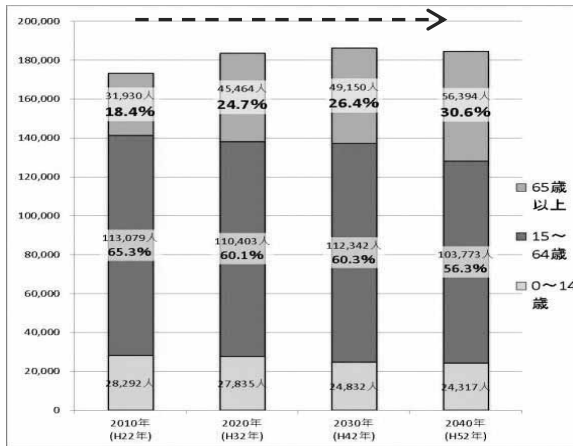
（各年4月1日現在）

資料：京都府統計書 ◆統計データ



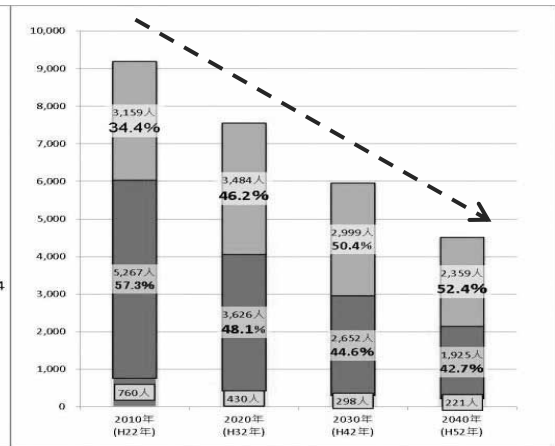
<学研地域(京田辺市・木津川市・精華町)の将来人口>

(対2010年比)
2040年の高齢化率30.6% < 12.2ポイントの上昇>
生産年齢人口割合56.3% < 9.0ポイントの減少>



<相楽東部地域(笠置町・和束町・南山城村)の将来人口>

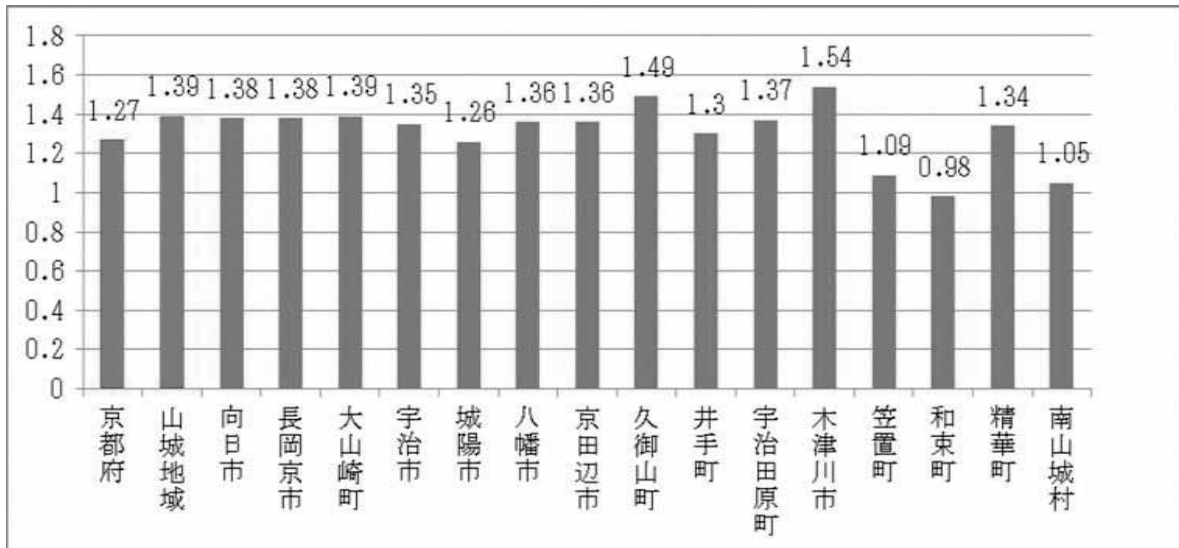
(対2010年比)
2040年の高齢化率52.4% < 18ポイントの上昇>
生産年齢人口割合42.7% < 14.6ポイントの減少>



資料：京都府推計人口(企画統計課) ◆統計データ

資料：日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計) : 国立社会保障・人口問題研究所 ◆統計データ

合計特殊出生率(平成20年~24年の平均)



(2) 前年度の主な取組状況

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係	平成28年度の主な取組と進捗状況	
(1) 府民の暮らしを支える安心・安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●河川・砂防施設等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・古川の改修推進 ・赤田川の改修推進 ・防賀川の天井川区間の切り下げ推進 ・下庄谷川及び不動谷川の砂防堰堤の整備推進 ●緊急時の道路交通機能の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・国道163号「北大河原バイパス」の整備完了、国道307号「奥山田バイパス」等の緊急輸送道路の整備推進 ●道路防災対策等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・大津南郷宇治線、木津信楽線等の道路斜面の崩壊防止対策の推進 ●適正な維持管理及び計画的な補修及び施設更新 <ul style="list-style-type: none"> ・天井川の補強工事の推進等 ●防災に係るソフト対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域等の指定 ・防災啓発パネル展の実施 ●農地・農業用施設の防災対策の推進(ため池詳細調査(22箇所)、ため池安心・安全マップ作成(1箇所)、マップ作成地区での森林整備講習会の実施(2地区)) ●宇治市炭山をモデルに、地域住民が主体となって行う、森林整備実践活動の他地域での取組支援(2地区) ●広域災害や感染症などの「健康危機」に即応できる体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・防災関係機関と医療関係機関の情報交換会等の実施 等 	
(2) 地域の活性化と交流を進める交通基盤など社会基盤整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●高速道路へのアクセス道路の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・八幡京田辺インター線の整備概成 ●JR奈良線高速化・複線化に合わせた関連道路の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・向島宇治線、上狛城陽線「玉水駅西交通広場」の整備推進等 ●まちづくりと一体となった道路整備 <ul style="list-style-type: none"> ・(都)新宇治淀線の整備完成 ・西京高槻線「物集女第2工区」、(都)御殿山崎線「第3工区」の整備推進 ・上久世石見上里線の整備推進 ・(都)山手幹線「宮津・菱田工区」等の整備推進 ●生活道路の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・伏見柳谷高槻線、和東井手線等の整備推進 ・国道163号道の駅「お茶の京都みなみやましろ村」完成 ●京都やましろ茶いくるラインの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・路面誘導表示の推進 ・茶いくるスポットの整備推進 	
(3) お茶の京都」等による、農林業や中小企業など地域を支える産業振興と新たな観光、地域交流の推進	<p>■「宇治茶の郷づくり」とお茶の魅力の発信</p>	<p>「お茶の京都」づくりを目指して、次の2つの取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宇治茶ファンを上げ、消費の拡大を図るとともに、日本遺産認定を契機に、世界文化遺産登録の取組と連携して宇治茶の価値・魅力を発信 <ul style="list-style-type: none"> ・急須でお茶を淹れ、もてなす文化を復活・継承するため、「宇治茶ムリエ」を育成(1,173人)や「king of 茶ムリエ」大会を開催 ・将来の宇治茶ファン育成(キッズ茶ムリエ 5回)や山城各地で「UJI-CHA Fair」を開催(参加者52万人) ・台湾での国際博覧会等において、宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う取組を支援(商談会7回) ・首都圏ホテル等で新しい宇治茶の飲み方を提案する消費拡大イベントを開催(参加者45,400人) ●持続可能な茶業経営の確立を図るため、香り高い宇治茶の生産振興 <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な宇治茶生産を推進するGAP手法を広く農家へ普及(実践農家率68%) ・抹茶スイーツなどの需要に対応するため、てん茶工場や集出荷施設の整備を支援 ・担い手の育成確保のため、急峻な茶園の改良工事に向けた準備(実施設計書を作成)
	<p>■「やましろ観光」の推進</p>	<p>日本遺産認定を契機に地域の観光資源の魅力を高め、発信する施策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数1,383万人(対前年2.7%増)、観光消費額200億円(対前年1.2%増) ●「UJI-CHA Fair」等年間を通じたイベントの参加者数の拡大(参加者数428,000人) ●山城ならではの美しい景色を写真や動画で公募し「やましろ八十八選」として発信(投稿数201点) ●「茶いくる」イベント参加者ICTを活用して山城地域の特産品を紹介、販売(宇治土産.com)1モデル
	<p>中小企業への支援と企業誘致、雇用対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「京都版エコノミックガーデニングの観点から」きめ細かな訪問活動や支援活動の実施(企業訪問4,406社) ●イノベーションによる知事認定企業を支援(14社) ●「京都やましろ企業オンリーワン倶楽部」等を通じた活動等により、企業間及び産学官連携を一層推進(累計114社) ●商店街創生センターと連携した支援事業実施(6商店街) ●市町村と連携した企業誘致の促進(誘致企業数14社) ●地域の実情に応じた雇用対策の推進(プレジデントセミナー開催5回)
	<p>特色ある農産物づくりと担い手対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●九条ネギ集出荷貯蔵施設の新設や京やましろ新鮮野菜の販売促進によるブランド力の強化を支援(販売額20億円(対前年180%)) ●「やましろ農産物直売所ネットワーク」の取組を支援し、魅力ある直売所づくりを推進(直売所フェア、食品表示リーダーの設置)(販売額12億円:4年連続10億円突破) ●「やましろ野菜産地担い手養成塾(4講座)」を開催し、担い手を確保・育成(新規19人)
	<p>豊かな森と里づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●モデルフォレスト運動の推進を目指し、企業、森林ボランティア、地区住民等が役割分担し、森林整備活動を支援(延べ参加者1,570名) ●特色ある農村ビジネスを目指す明日の京都村づくりを推進(南山城村、商品開発25品目)や農家民宿開設支援(3件)し、定住者数を確保(25人) ●地域産木材の利用促進のため、公共建築等での利用を促進(2件) ●ニホンザル農作物被害軽減のため、追い払い等住民が一体となった取組(3集落)や個体数管理(捕獲数61頭)を進め、7年連続減少(被害金額18百万円→15百万円)

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成28年度の主な取組と進捗状況
(4) 少子・高齢化への戦略的対応と生涯健康づくり	少子化への戦略的対応	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生、大学生の若者が、結婚、妊娠、出産、子育ての人生の節目に適切な選択ができるように正確な情報を提供 健康出前講座・セミナー(5回)、従事者研修会(7回)、思春期パネルディスカッション(1回) ●体験型観光や地域の魅力スポットを活用した山城ならではの「出会いの場」づくりを推進(3回) ●妊産婦の不安や負担を少しでも軽減するため、市町村や地域の子育て団体と協力の支援の仕組みづくり 子育て支援団体の少ない市町へ、ケア専門員・訪問支援員を広域的に派遣実施(4町)。ネットワーク会議・研修会(4回)。支援方法手引き作成。
	だれもが安心して生活できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者の企業就職を支援、毎年の目標を達成 ●障害者の手作り製品を販売する12か所の常設店の開設を支援、目標達成、さらなる増設をめざす。
	高齢者がいきいきと安心して暮らせる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●医療・介護・福祉の連携強化を推進 <ol style="list-style-type: none"> ①地域包括ケア体制の整備 ・保健所ごとの市町村協議会等の開催 ②認知症初期対応型カフェの整備 ③認知症高齢者SOSネットワークの構築 ④オレンジロードつなげ隊による認知症啓発事業の実施 ⑤在宅医療の充実 ・多職種が参画する会議等の開催により連携を推進
	生涯を通じた健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所や市町村・女性グループとの協働によるがん検診受診啓発事業を実施(健康セミナー1回、健康出前講座22回、検診受診促進クチコミ隊養成 新たに59名・総数208名) ●アレルギー対応支援(講演会2回、関係者研修会1回、マニュアル作成支援) ●思春期健康出前講座(防煙・エイズ・がん・思春期)19回(小学3校、中学11校、高校6校、大学3校)
(5) 地域文化の継承・発展と環境保全、郷土を愛し、世界にはばたく子どもの育成	文化・スポーツや環境の継承・創造	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせた「京都文化力プロジェクト2016-2020」に向けた機運を盛り上げるため、管内の文化イベントを「やましろ文化祭」として冊子やHPで紹介し、23.6万人が参加。 ●地域の文化力をさらに発展させ、「京都文化力プロジェクト2016-2020」に向けた機運を盛り上げるため、「やましろのタカラフェスティバル」等を開催。3,550人の参加者が、文化や科学、地域活動に触れる機会を創出。 ●大規模排出事業者からの温室効果ガスの排出抑制 大規模排出事業者への温室効果ガスの排出削減指導 3事業所
	郷土を愛し、世界にはばたく子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ●科学好き・ものづくり好きの子どもの育成事業で、事業参加者が定着 ●山城地域の歴史や文化・産業などの学習を推進し、全小中学校で取組済み ●親への学習機会の提供や家庭教育支援に携わる人材の養成を進めている。
地域特性をいかした施策の展開	■乙訓地域 (京都乙訓ダイナミックシ ティーズ構想)	<ul style="list-style-type: none"> ●乙訓かぐや姫観光の推進(地元住民を中心としたワークショップ等の開催や乙訓地域を巡るバスツアーの造成など) ●乙訓にぎわい発信事業の実施(「もうひとつの京都」との連携など大物産展等の開催やポータルサイトの運営など) ●多様な地産地消対策の推進(ふるさと軽トラ市の開催など) ●乙訓「若竹」産業創造プロジェクトの推進(竹資源の活用研究など)
	■相楽東部地域	<ul style="list-style-type: none"> ●相楽東部未来づくりセンターを設置し、地域創生の戦略的推進 ●移住定住の促進 ●広域的な子育て支援で支援体制の構築と生涯健康づくり

(3) 数値目標に対する施策指標の進捗状況

施策指標	進捗率 (%)	進捗率グラフ				
		0%	25%	50%	75%	100%
地域振興計画						
山城						
1 災害関連河川の改修率(弥陀次郎川)	100.0	[100%]				
2 災害関連河川の改修率(戦川)	0.0	[0%]				
3 災害関連河川の改修率(志津川)	100.0	[100%]				
4 災害関連河川の改修率(古川)	0.0	[0%]				
5 災害関連河川の改修率(赤田川)	0.0	[0%]				
6 新名神高速道路のICへのアクセス関連(八幡インター線)	100.0	[100%]				
7 JR奈良線の高速化・複線化関連(新宇治淀線)	100.0	[100%]				
8 JR奈良線の高速化・複線化関連(向島宇治線「宇治街道踏切立体交差」)	3.4	[3.4%]				
9 JR奈良線の高速化・複線化関連(京都宇治線「黄檗門前踏切付近」)	50.0	[50%]				
10 JR奈良線の高速化・複線化関連(上狛城陽線「玉水駅」)	15.4	[15.4%]				
11 「宇治茶GAP」実践農家率	68.0	[68%]				
12 急峻(しゆん)な茶園の改修面積(延べ)	—	[—]				
13 荒茶生産額	133.3	[133.3]				
14 観光入込客数	39.9	[39.9]				
15 観光消費額	42.4	[42.4]				
16 観光客の一人当たり消費額	60.7	[60.7]				
17 企業訪問活動を強化し、企業づくりのサポートを実施(年間)	76.6	[76.6]				
18 経営革新やステップアップに取り組む企業をサポートし、中小企業応援条例に基づく「元気印」や「知恵の経営」等の認定企業数を拡大(年間)	-50.0	[-50.0]				
19 京やましろ新鮮野菜の年間販売額	816.0	[816.0]				
20 ブランド京野菜の年間販売額	180.0	[180.0]				
21 農産物直売所の販売金額	26.7	[26.7]				
22 農業における新規就農・就業者数(年間)	0.0	[0.0]				
23 農山村へ移住した都市住民等の人数	127.8	[127.8]				
24 ニホンザルによる農作物被害金額の半減	81.6	[81.6]				
25 府民、企業、団体、NPO、大学等が連携して森林づくりに取り組むモデルフォレスト運動への延べ参加者数	63.3	[63.3]				
26 出生数増	-16.6	[-16.6]				
27 保育所待機児童数	45.5	[45.5]				
28 児童虐待未然防止に関する協力医療機関(産科病院・診療所)の数	120.0	[120.0]				
29 障害者支援事業所が生産する農産物の納入福祉施設の数	100.0	[100.0]				
30 山城地域の認知症カフェ設置市町村数	100.0	[100.0]				
31 地域力再生プロジェクト支援事業交付金で支援する高齢者に対する共助型福祉の取組(延べ)	50.0	[50.0]				
32 がん検診を受診する人の割合(胃がん)	17.0	[17.0]				
33 がん検診を受診する人の割合(肺がん)	-8.3	[-8.3]				
34 がん検診を受診する人の割合(大腸がん)	24.1	[24.1]				
35 がん検診を受診する人の割合(乳がん)	7.7	[7.7]				
36 がん検診を受診する人の割合(子宮がん)	-8.0	[-8.0]				
37 大規模排出事業者の温室効果ガス排出削減率	—	[—]				
38 山城地域で実施される各種文化事業への参加者数	186.7	[186.7]				
39 子育て・親育ち講座等の参加人数	79.3	[79.3]				

※ 基準値からの増減を目標とする指標等進捗率が表せない指標については、進捗率欄及び進捗率グラフ欄は「—」としている。

(4) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2016年9月] の「今後の課題」について、平成29年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

山城地域振興計画

今後の課題	主な事業等
木津川右岸地域（相楽東部地域等）の活性化	
<p>◇人口減少エリアから、新しい「豊かなライフスタイル」を創造・提供するエリアへの転換</p> <p>☆ 空き家バンク整備・農村体験提供や広域観光の推進などによる交流人口の拡大</p> <p>☆ 子育て支援・高齢者支援や公共交通の整備・連携などによる定住対策</p> <p>☆ 学研都市等との連携強化につながる諸施策などを検討・展開</p>	<p><input type="checkbox"/> 京都府と相楽東部三町村の協業による未来づくり</p> <p><input type="checkbox"/> 宇治木屋線「犬打峠」の測量・設計</p> <p><input type="checkbox"/> 国土交通省による宇治木津線概略ルート・構造の検討</p> <p><input type="checkbox"/> 宇治田原山手線の測量</p>
「お茶の京都」、 「かぐや姫観光」 等による地域の活性化	
<p>◇「お茶の京都」エリア12市町村構成文化財の日本遺産認定を弾みに、世界に誇る日本の喫茶文化を育んできた「宇治茶」に関わる山城地域のさまざまな有形無形の資産の価値の発信が必要</p>	<p><input type="checkbox"/> 「お茶の京都博」 Uji-CHA Fair事業</p> <p><input type="checkbox"/> 「お茶の京都」体験型観光による観光消費額倍増プロジェクト事業</p> <p><input type="checkbox"/> 「お茶の京都」を「食」で支えるやましろ農業活性化事業</p> <p><input type="checkbox"/> 「竹の里・乙訓」かぐや姫観光推進事業</p> <p><input type="checkbox"/> 「京都やましろ茶いくるライン」の整備推進</p>
<p>◇さらに、平成29年度の「お茶の京都」のターゲットイヤーや2020年のオリンピックイヤーに向けて、「世界文化遺産登録」を視野に入れた「宇治茶」の普遍的な価値の世界への発信と、そのことにより多くの人を訪れる大交流圏を創出し、地域の均衡ある発展を目指すことが重要</p>	
<p>◇お茶の京都DMOや「竹の里・乙訓」かぐや姫観光」による広域観光等の展開</p>	

交流連携による産業イノベーションの創出と人材の確保

◇京都市域から関西文化学術研究都市に至る地域と白坂（井手町）・城陽地域の企業との交流連携、地元中小企業と誘致企業との交流連携により、個々企業の成長・発展と産業イノベーションの創出を図ることが重要

◇加えて、学研都市等の未利用地の事業化の促進による、企業誘致の受け皿づくりを行うとともに、府内外から人材を確保し、立地企業の円滑な操業を支援することで、地域の活性化を図ることが重要

- 京都イノベーションベルト・やましろ企業ネットワーク 拡大プロジェクト事業
- （都）山手幹線の整備概成
- 国道307号「市辺～奈島工区」、同「郷之口工区」の整備推進

南丹地域振興計画

(1) 今後の課題

今後の課題 1

「森の京都」ターゲットイヤーの成果を活かした 更なる地域の魅力発信やブランドの強化

- 京都丹波地域への観光入込客数（2016年）は、「森の京都博」の開催及び京都縦貫自動車道全線開通によるアクセス向上等の機会を捉え、旅行会社等への積極的なPR活動等により、前年度より113万人増の830万人となったが、観光客一人あたり消費額は滞在型観光が少なかったことや宿泊施設が少ないこと等により、前年並みの1,632円にとどまっている。
- 管内の農山漁村へ移住した都市住民等の人数（2016年：累計）は、京都移住コンシェルジュによる伴走支援や市町・地域・既移住者と連携したセミナー開催、空き家改修支援策の活用等により、前年度の2倍以上となる81名となった。
- 農産物直売所の販売金額（2016年）については、直売所出荷者協議会への生産・出荷技術研修の指導による品揃えの強化や、直売所おすすめレシピ「京都丹波イチ推しの食100選」のレシピサイトへの掲載など直売所の魅力を「見える化」させる取組を実施したこと等により、前年度より0.9億円増の22.5億円となった。
- 京都丹波地域の教育体験旅行受入人数（2016年）については、受け入れ組織である「京都丹波・食と森の交流協議会」を核に、各地域での受け入れ家庭登録や受け入れマニュアルの整備、受け入れ研修会を重ねるとともに、モニターツアーの実施等による誘致活動を展開した結果、着実に受入が拡大し2018年の数値目標3,000人を上回る3,259人となった。
- 地域内で製材加工される量（原木換算）（2016年）については、森林整備事業の増加が見られなかったため、前年度より3,000m³減の12,000m³となった。

[課題]

☆森の京都DMOとの連携による魅力発信・交流拡大

新たに設立した森の京都DMOと連携し、「森の京都博」等を契機にした文化、食・スポーツを活かした滞在型観光など、魅力あるコンテンツづくりを具体的に進めていくことや、農家民宿のさらなる開設支援などが必要

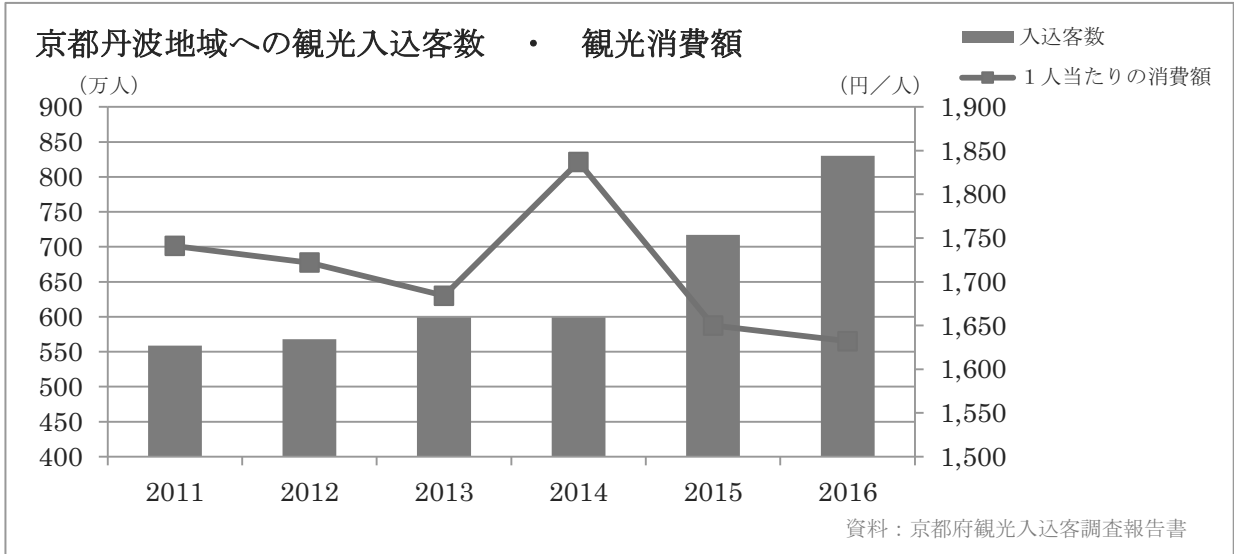
☆大都市に近く、暮らしやすい強みを活かした移住・定住対策の推進

産学公連携による「京都丹波移住・定住促進協議会」を核に「しごと」、「子育て・教育」、「住まい」など、移住希望者に応じた新しい生き方、暮らし方のノウハウを、目に見える形で具体的に発信していくことが必要

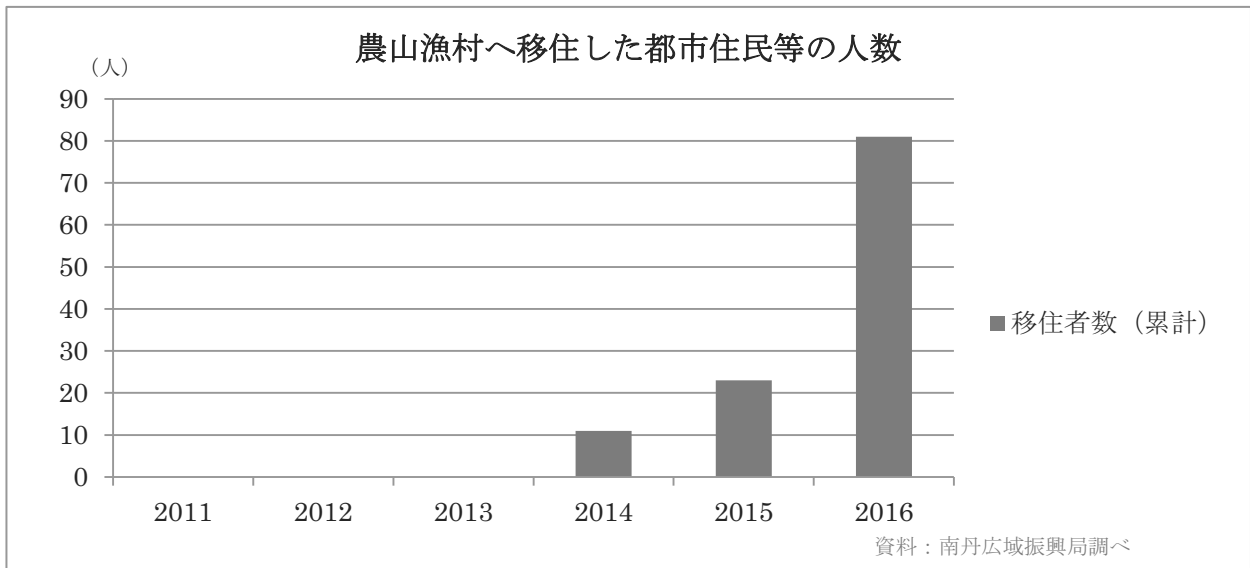
☆京都丹波の持つ豊かな「食」、「木材」等を活かした新たなブランドづくり

豊かな「食材」や観光客等の目当てとなるようなおいしい「食」、「料理」の見える化を図ることにより、より効果的にマーケット・メディアへアクセスしていく取組が必要

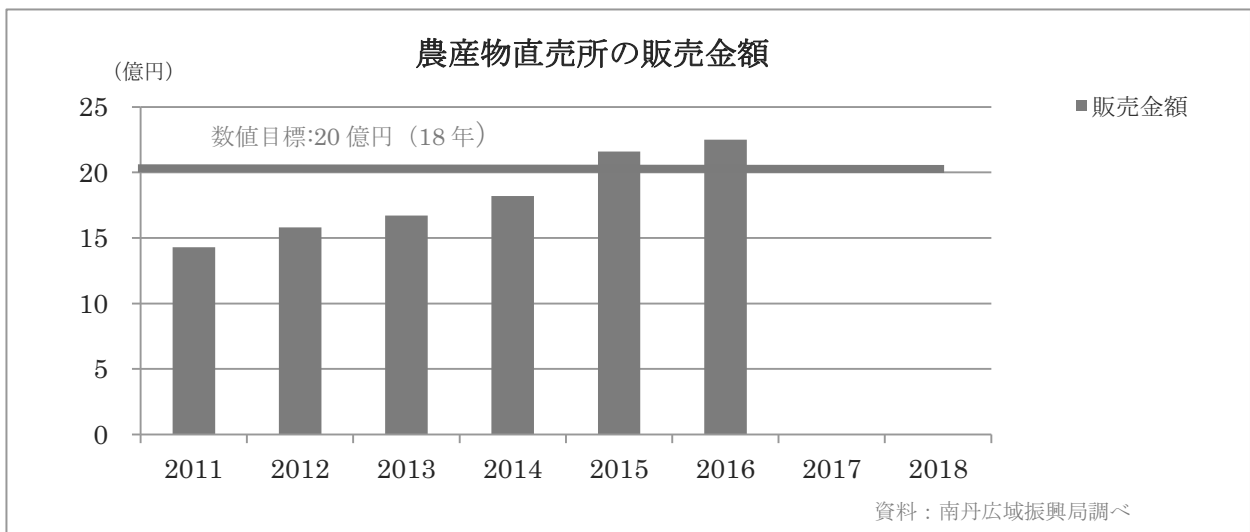
また、地元産材の良さ、木の文化を多くの人に身近で感じてもらえる取組が必要



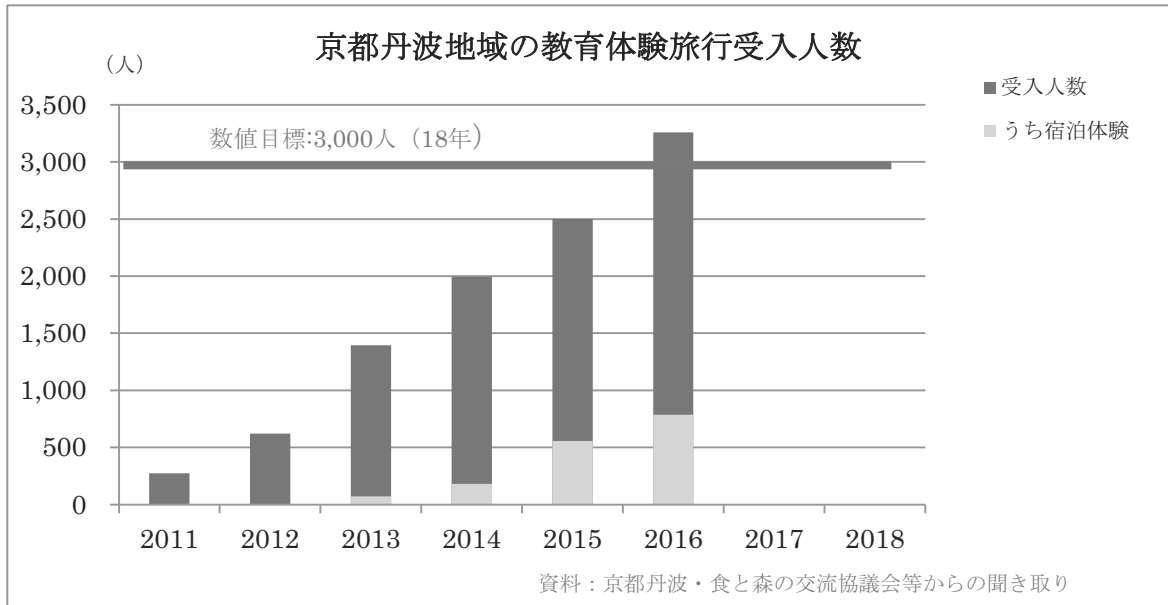
□施策指標



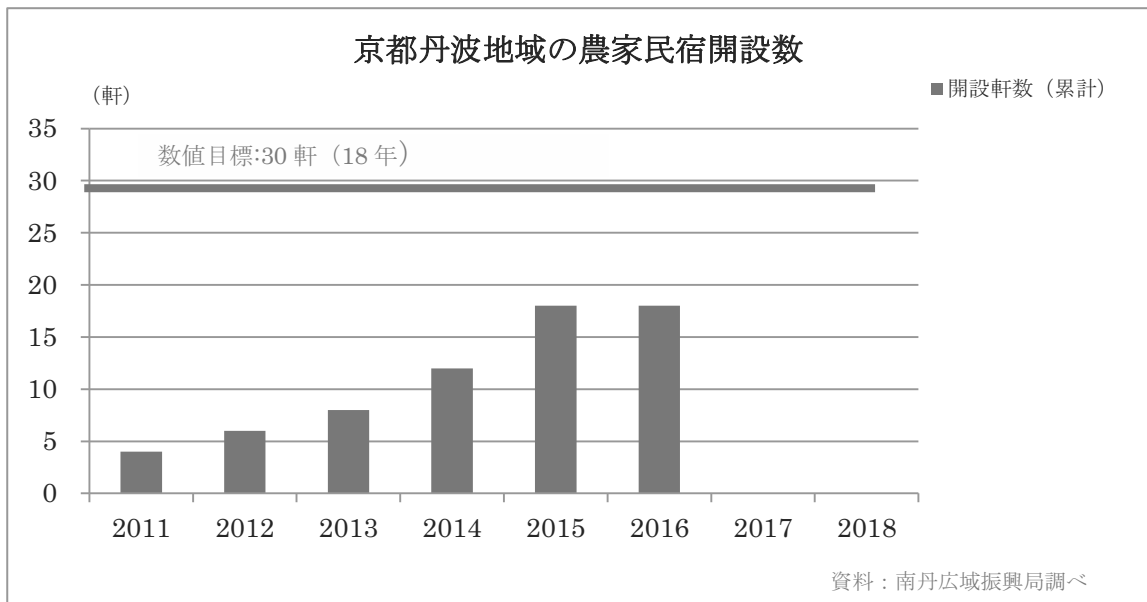
□施策指標



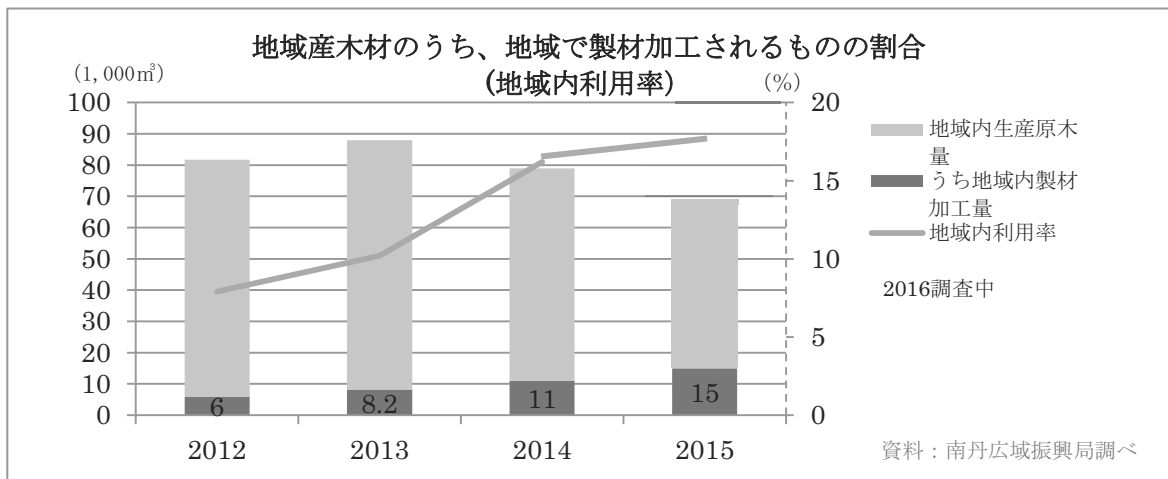
□施策指標



□ 施策指標



□ 施策指標



◆ 統計データ

京都丹波の人づくり・元気づくり

- 南丹高校テクニカル工学系列の開設に伴い、地元企業等との連携により、インターンシップ・企業見学・ものづくり体験等が行われ、参加者数（2016年）は前年度より21名増の72名となった。また、ものづくりに対する関心・興味を醸成するための「南丹キッズパーク」が開催され、約700名の来場があった（主催：南丹高校、協力：南丹広域振興局、亀岡商工会議所）。
- なんたん障害者就業・生活支援センターが中心となって特別支援学校や職業訓練校の卒業生等へのきめ細かな支援を行ったことにより、一般就労に結びついた障害のある人の数（2016年）は前年度を6名上回る33名となった。
- 障害者福祉事業所における障害者の月平均工賃（2016年）は、過去最高の17,800円となったが、平均工賃が低い小規模の新規事業所の影響等により、工賃水準は伸び悩み、目標値（19,500円）には至らなかった。

[課題]

☆南丹高校テクニカル工学系列等と地元パートナー企業が連携した人材育成

地元のものづくり人材を育成するためには、行政・経済団体等からなる「京都丹波中小企業支援Aチーム」と地元企業が教育現場と連携し、さらに、地元住民も巻き込んだ南丹ならではの取組を一層推進することが必要

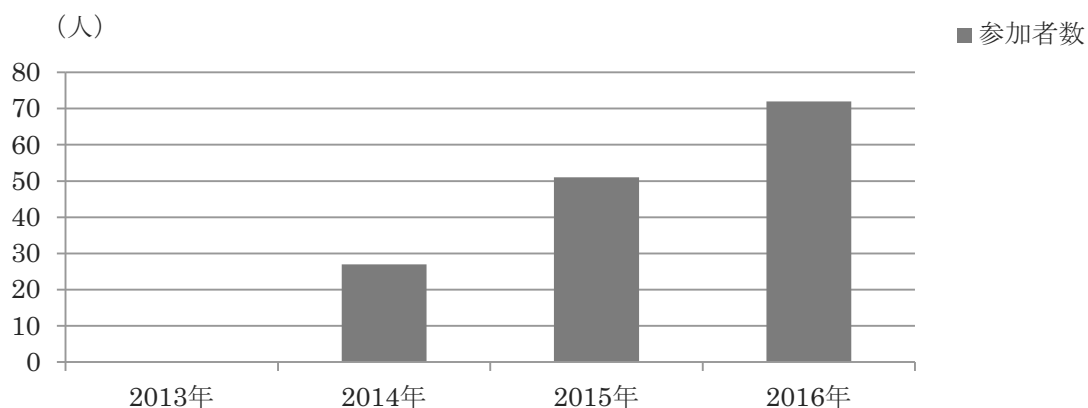
☆障害者等の自立支援に向けた「福祉農業」の推進

障害者の新規就労を創出するためには、なんたん障害者就業・生活支援センターとハローワーク、京都ジョブパーク等が連携した就労支援に加え、農福双方の強みを活かすことができる農福連携の取組を推進することが必要

☆障害者の平均工賃向上に向けた取組の推進

障害者の平均工賃を向上させるためには、新規事業所や平均工賃の低い事業所への積極的な働きかけに加え、京都丹波オリジナルブランド「ぬくもり京都丹波」販売促進のための品質向上や販売促進のための技術習得やイベント出店、優先調達呼びかけ等の取組が必要

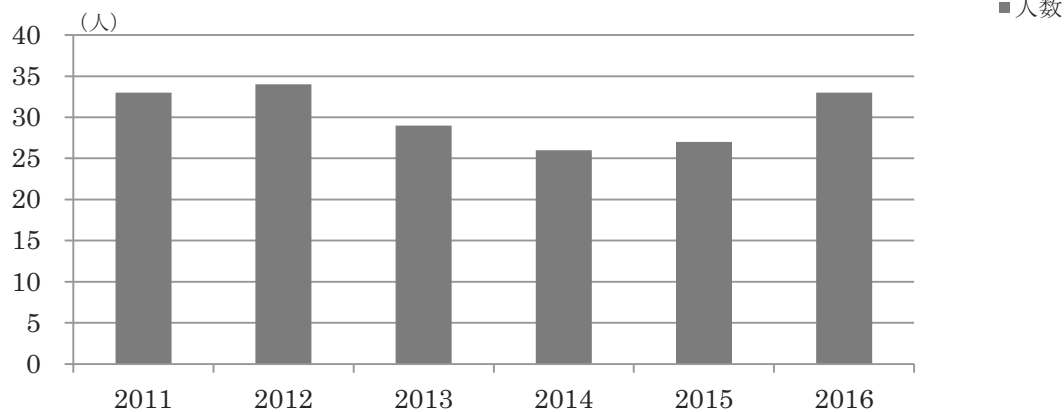
インターンシップ、企業見学、ものづくり体験等への参加者数



資料：南丹広域振興局調べ

□施策指標

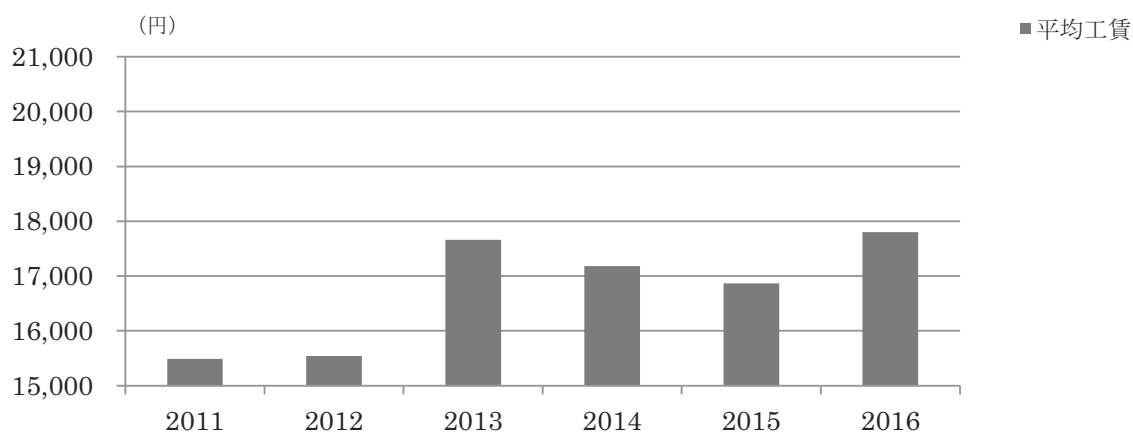
「就業・生活支援センター」と連携して一般就労に結び付いた障害のある人の数



資料：なんたん障害者就業・生活支援センター調べ

□施策指標

障害者福祉事業所における障害者の月平均工賃



資料：障害者支援課調べ

□施策指標

安心・安全の京都丹波づくり

○ 土砂災害のおそれのある区域は管内で3,849箇所存在していることから、地域住民の生命・財産を守るため、土砂災害防止法に基づき、平成29年3月末時点で3,334箇所（87%）を土砂災害警戒区域に指定している。

○ 管内には438のため池があり、うち63池を市町が防災重点ため池と指定している。

安心・安全な地域づくりを進めるため、計画的に危険ため池の整備を実施している。

※防災重点ため池：次のいずれかに該当するもの

- ・ 決壊した場合に人家や病院、学校などの重要な公共施設へ影響を与えるおそれがあるもの
- ・ 堤高15m以上で下流の農地・農業用施設などに多大な影響を与えるおそれがあるもの

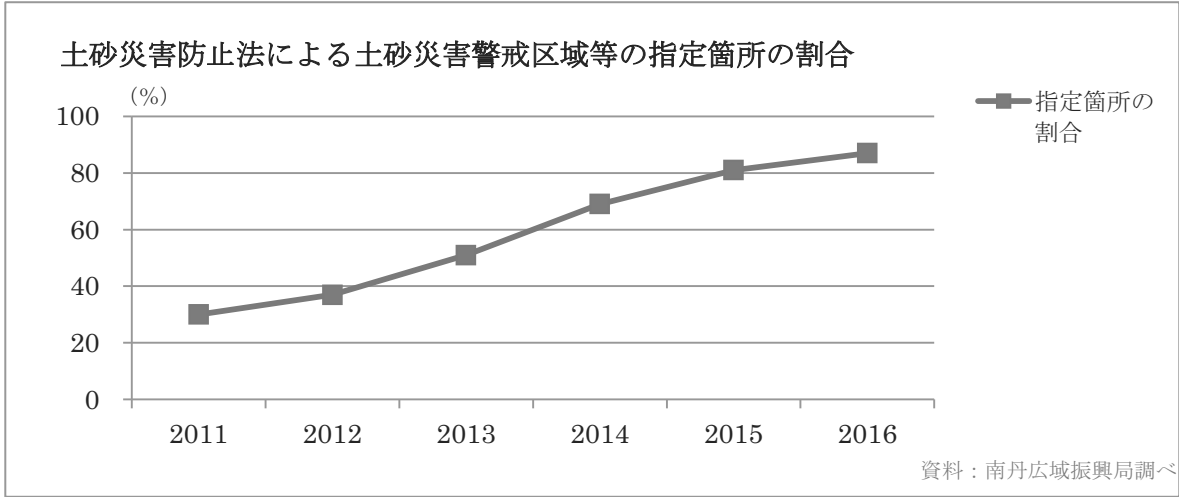
[課題]

☆土砂災害警戒区域の全件指定完了

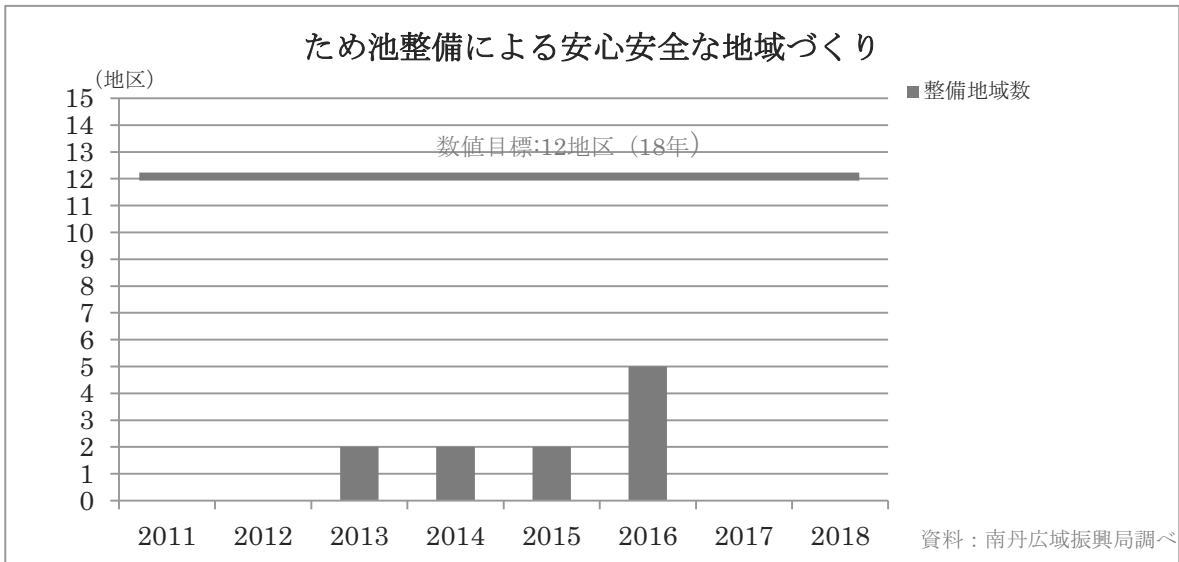
土砂災害のおそれのある区域について、危険の周知、警戒避難態勢の整備等を推進し、地域住民の安心・安全を確保するためには、これまで以上に関係機関の協力を得た上で、丁寧な地元説明を行うことにより、未指定分の指定を完遂することが必要

☆危険ため池の整備やハザードマップの作成等によるため池災害の未然防止

ため池災害などを未然に防止するためには、危険ため池の整備を着実に実施するとともに、市町、自治会を通じた地域ぐるみのため池ハザードマップの作成等により地域の防災意識の向上を図ることが必要



□施策指標



□施策指標

(2) 前年度の主な取組状況

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成28年度の主な取組と進捗状況
①地域資源をいかした交流と賑わいの森の京都	■豊かな自然をいかした「森の京都」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 管内8つの道の駅を「森の京都」のウェルカムゲートに位置付け、京都丹波地域への誘客を推進(道の駅利用者数365万人) 「森の京都」戦略拠点への交通アクセス強化を進めるため、園部平屋線(殿田)、京都広河原美山線(内久保バイパス)の工事推進等実施 道の駅「瑞穂の里 さらびき」のトイレ改修の実施 地域産材PRのための森林や市場、製材施設等の見学会(2回)や大型木造建築施設の見学等(1回)、管内の森林業関係者が一堂に会する「森の京都 京都丹波スクール」の開催(1回)など、地域材需要促進に向けた活動を実施
	■「食」や「森」をいかした京・里山のおもてなし	<ul style="list-style-type: none"> 五色の豆の魅力を多くの人に知ってもらう「京都丹波豆ONEグランプリ2016」を開催(1回) 受け入れ組織である「京都丹波・食と森の交流協議会」を核に、受け入れ家庭登録や受け入れマニュアルの整備、受け入れ研修会を重ねるとともに、モニターツアーの実施等による誘致活動を展開(受入家庭登録累計173戸、受入人数3,259人) 農家民宿開設支援に向け、関係行政機関(建築、保健所、消防等)の合同調査等を実施(7件)
	スタジアムや地域資源をいかしたスポーツ観光	<ul style="list-style-type: none"> 京都丹波・トライアスロン大会in南丹の開催(来場者数 10,000人) 京都トレーニングセンターの開設にあわせ、親子が楽しめる「京都丹波キッズスポーツふれあい広場」を開催(参加者数3,000人) スポーツ観光の企画プログラム開発(8件) 宇津根橋(郷ノ口余部線)P1橋脚工事完了、P2・P4橋脚工事着手等、専用球技場へのアクセス道路整備を推進
	新しい時代の観光振興	<ul style="list-style-type: none"> オール京都丹波による国内外からの観光客の受入体制の整備を進めるとともに、メディア、旅行会社等を対象としたファミトリップなど国内外誘客おもてなし事業を展開 地域の観光資源の発掘と、若年層の郷土愛の醸成を図るための京都丹波観光プランコンテストの開催(1回)、応募プランの旅行商品化に向けたモニターツアー等の実施(1回)
②だれもが健やかで住んでみたくなるまちづくり・人づくり	安心・安全で住みやすいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災の先導役を担う地域防災リーダーを育成するための研修会・ワークショップの開催 「自分の安全は自分で守る」ための知識等を盛り込んだ防災啓発チラシを作成し、地域防災力を向上 広域防災活動拠点開設訓練を実施(8/2、9/4) 府総合防災訓練において、タブレットを活用したドローンによる情報伝達訓練を実施 水防対応訓練、原子力防災訓練等において、WEB会議システムを活用した情報交換を実施 不法投棄等防止旬間パトロールを実施(5/24)するとともに、違法開発案件について、管内関係機関と連携して迅速な対応と拡大防止を図った。 児童等が安全に通学できるよう通学路等の歩道整備(王子並河線、園部停車場線)を実施 平成26年台風11号及び平成27年台風11号等の災害復旧工事の推進(園部川(横田工区)) 京都丹波の道・長寿プランに基づき、橋梁129橋(全体487橋)、舗装8km、トンネル(本体)5箇所(全体12箇所)の点検を実施しアセット・マネジメントの手法による管理推進 保健所、家畜保健衛生所と連携し、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなど、有事における家畜防疫体制の整備に向けた実地防疫研修会、スターターチーム研修会等(計3回)の実施
	人権の尊重と自立と協働による思いやりと信頼の「絆」づくり	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重の理念を広く府民に訴えかけるため、8月の人権強調月間と12月の人権週間に街頭啓発活動を実施
	地域に伝わる自然や歴史・文化をいかした地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 市町、里の公共員、京都移住コンシェルジュ等と連携して、空き家の掘り起こしや活用を進めるとともに、ふるさと暮らしの情報発信を強化し、農村地域への移住定住を促進 新規定住者の受け入れ 58人 都市部でのセミナー・相談会開催 5回 地域再生活動に取り組む地区数 5地区 オール南丹で移住を推進する「京都丹波移住・定住促進協議会」を設置(11/1)
	地域資源をいかした次世代につなぐ人づくり	<ul style="list-style-type: none"> 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等の連携事業に取り組み、世代間交流を推進(取組件数15件)
	だれもが健康で安心して暮らし支え合う「絆」づくり	<ul style="list-style-type: none"> 【健康づくり】 きょうと未病改善センター等と連携して「健康・長寿ナンバーワン」を目指し、がん・生活習慣予防など、トータルで健康づくりを進める「南丹式健康長寿プログラム」を全市町村で展開(運動普及イベント参加住民51名 野菜レシピの活用団体16団体 防煙教室の実施7校等) 青・壮年期の食を通じた健康づくりを進めるため、「けんこう食堂化」事業を展開(2箇所) 【高齢者支援】 管内医療機関等関係機関との協働による地域包括ケアシステムの構築 医療・看護・介護等多職種が広く参加する「なんたん在宅医療連携研究会」等意見交換会の開催(6回 延べ178機関 延べ325名参加) 京都式高齢者介護予防プロジェクト事業の普及啓発(2市1町) 【子育て支援】 子育て支援団体が中心となり、地域全体で子育て家庭を応援する仕組み(「子育てわくわくご近所応援団」)をモデル的に実施(4箇所) 【障害者支援】 障害者の新規就労支援、職場定着支援(新規一般就労33名) 「ぬくもり京都丹波フェスタ2016」の開催(イオンモール京都桂川) 【福祉人材の確保】 福祉人材の確保対策及び職場定着の促進(採用力向上セミナー1回 17事業所、福祉職場就職フェア1回 参加者のべ42法人・職場定着のための研修会1回 等)

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成28年度の主な取組と進捗状況
③ 地域の活力を支える産業・農林業の振興	■地域特性をいかしたもののづくり産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地や立地企業の高度化(増設等)を促進(5件)、新規雇用56名 ・新光悦村での工芸品等の展示販売会実施(1回) ・中小企業の経営安定や発展等、経営環境の整備に向けた支援のため、市町、産業支援団体等による新組織「京都丹波中小企業支援Aチーム」を創設 ・ハンズオン支援のための企業訪問(202件) ・中小企業応援セミナー・施策説明会の開催(6回) ・中小企業による経営革新等の取組支援(34件) ・南丹高校テクニカル工学系列と地域ものづくり企業と連携した、人材育成 ・パートナー企業との懇談会の開催(1回) ・南丹高校テクニカル工学系列の人材育成支援(72名) ・エネルギーの地産地消化や新ビジネス創造による雇用創出、地域経済活性化を目的とした「京都丹波EMS地方産業創生プロジェクト事業」を展開
	地域の強みやチャンスを活かした、元気で魅力ある商店街・個店づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの商店街等のニーズ把握に努め、支援施策の活用支援等を通じ、賑わいと交流による活性化を支援 ・地域の特色を活かした商店街づくりのための施策活用支援(12件) ・京都丹波の知名度向上や地域の特産品・名品などの販路拡大等のための物産展等への参画支援(2回)
	■農工商連携を軸にした年間1億円をめざす経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・京都学園大学など地元の高等教育機関と連携した特産野菜を使った加工品開発などの取組を実施(2事例) ・畜産経営継承塾を開設し、畜産後継者2名が新たに技術改善を実施(8回) ・農地中間管理事業による貸付農地面積(47ha)
	■水田農業の大転換も見据えた集落営農の法人化による地場産業としての農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド京野菜を中心とする戦略作物(「京かんざし」、黒大豆エダマメ、丹波くり)については、平成30年度の目標である栽培面積100haを突破(☉103ha) ・耕畜のマッチング強化による稲WCSの生産が拡大(52ha→67ha) ・『「京都丹波」イチ推しの食100選』として、レシピサイトに掲載し広く発信する取組を実施(100レシピ掲載済) ・2市1町の直売所を楽しく巡る直売所ロードマップの作成や直売所クイズラリーを実施 ・京都丹波ブランドを活かした農畜産業の振興、防災減災対策を推進するため、府営農業基盤整備の事業実施 ・上桂川地区(協議完了)、新庄地区(発注済)、大石ヶ谷池地区(堤体工完了)、川東地区(事業完了)
	農業・農村資源をいかしたユニバーサル農業(福祉農業)の創造とビジネス展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっとはあと製品」販売促進等研修を各事業所職員を対象に開催(3回) ・「めぐもり京都丹波フェスタ2016」をイオンモール京都桂川で開催(15事業所参加、延べ107名)
④ 安心・安全と交流を支える基盤整備	安心・安全な災害に強いまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・桂川(千々川、園部川等の支川も含む)の河川工事実施 ・緊急輸送道路ネットワーク整備工事等実施。異常気象時の通行規制の緩和・解消のため検討会開催 ・土砂災害警戒区域 3,334箇所指定(指定率87%)を実施 ・耐震診断補助事業及び耐震改修助成事業を2市1町で実施するとともに、制度周知のための広報活動を市町と連携して実施し木造住宅の耐震診断・耐震改修の戸数増を推進(耐震改修診断受付36戸、耐震改修22戸) ・市町と連携した、ため池災害の減災防災対策を実施するとともに、地域の防災意識向上を図るため池災害の減災防災対策を実施 ・危険ため池の整備改修 4池、ため池耐震調査等 5池、ため池ハザードマップ作成 3池
	明日の「京都丹波」の礎を築く交流の郷づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪方面との交流拡大のため、枚方亀岡線及び茨木亀岡線の道路整備に向けた用地調査等を実施 ・「保津川かわまちづくり計画」に基づき、統一感のある情報提供施設整備を行うための方針を策定
	交流の基盤となる交通ネットワークの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興、地域観光に寄与するための道路整備の推進(京都広河原美山線(内久保バイパス)の完成) ・京都縦貫自動車道へのアクセス道路整備の推進(国道477号(西田大藪道路)工事の推進)
	豊かな自然環境の保全と快適で人にやさしい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童等が安全に通学できるよう、通学路の整備を推進(王子並河線、園部停車場線、松山須知線など12箇所)
⑤ 「京都丹波」ブランドの国内外への発信	「京都丹波」の地域ブランドの国内外への発信により、人を呼び込み、元気なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市町、NPO、地元団体などと協働で音楽・食・芸術・体験などをテーマとした「京都丹波・森の京都フェスティバル」を開催(来場者数18,000人) ・オール京都丹波による国内外からの観光客の受入体制の整備を進めるとともに、メディア、旅行会社等を対象としたファミトリップなど国内外誘客おもてなし事業を展開 ・森の京都博に合わせ、「京都匠ビレッジフェスティバル」(延べ200人参加)や「匠ビレッジモニターツアー」(33人参加)、京都丹波ならではの産業施設を巡る「産業観光モニターツアー」(22人参加)を開催 ・森の京都博に合わせ、京都新光悦村への誘客・誘致を図るため、「京都新光悦村フェスティバル」を開催 ・「大丹波連携推進協議会」(中丹・南丹広域振興局、兵庫県丹波県民局)による大丹波観光ドライブマップの発行、観光プロモーションの実施

(3) 数値目標に対する施策指標の進捗状況

施策指標		進捗率 (%)	進捗率グラフ				
			0%	25%	50%	75%	100%
地域振興計画							
南丹							
1	地域内での製材加工される量(原木換算)	19.2					
2	教育体験旅行の受入団体数	176.5					
3	教育体験旅行の受入人数	116.1					
4	府の支援による農家民宿の開設数	45.5					
5	スポーツ観光の企画プログラムの開発数	66.7					
6	京都丹波地域への観光入込客数	452.9					
7	観光客の一人当たり消費額	-5.1					
8	地域力再生交付金等を活用したプラットフォームの数	100.0					
9	子どもの社会体験事業数	45.0					
10	子どものための文化体験の数	40.0					
11	里の公共員を配置する等過疎高齢化が進む農山漁村で地域再生活動に取り組む地区数	100.0					
12	農山漁村へ移住した都市住民等の人数	202.5					
13	幼小中高大連携の取組件数	100.0					
14	「就業・生活支援センター」と連携して一般就労に結び付いた障害のある人の数	64.7					
15	障害者福祉事業所における障害者の月平均賃金	4.2					
16	健康(食)教育及び啓発を実施する事業所・大学	75.0					
17	インターンシップ、企業見学、ものづくり体験等への参加者数	72.0					
18	中小企業による経営革新等の取組支援(認定・助成等)	69.2					
19	農産物や加工品等の年間販売額が1億円を超える農業法人等の数	75.0					
20	京都丹波アグリネット(仮称)を核とした新たな商品の開発数	58.8					
21	集落型営農法人の数	50.0					
22	戦略作物(「京かんざし」、黒大豆エダマメ、丹波くり)の栽培面積	150.0					
23	農業振興地域の農用地における耕作放棄地面積	4.8					
24	農産物直売所の販売金額	175.8					
25	土砂災害防止法による土砂災害警戒区域等の指定箇所割合	73.5					
26	ため池整備による安心安全な地域づくり	30.0					
27	道の駅の利用者数(購買者数・レジカウンター)	212.9					

※ 基準値からの増減を目標とする指標等進捗率が表せない指標については、進捗率欄及び進捗率グラフ欄は「—」としている。

(4) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2016年9月] の「今後の課題」について、平成29年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

南丹地域振興計画

今後の課題	主な事業等
(1) 地域資源（たから）を活かした「森の京都」づくり	
☆森の京都DMOによる交流人口拡大の加速化	・「京都丹波・森の文化祭」開催事業
☆教育体験旅行受入態勢の強化	・京都丹波ゆったり・おもてなし創生事業
☆丹波広域林道を活用した原木の生産量拡大等の推進	・「木づかい運動」展開事業
☆地域資源を活用したスポーツ観光の推進	・キッズスポーツふれあい広場等開催事業
(2) 災害に強い安心・安全のまちづくり	
☆危険ため池の整備やハザードマップの作成等によるため池災害の未然防止	(本庁予算で対応)
☆様々な視点による災害に強い安心・安全のまちづくり推進	・地域防災リーダー育成及び体験型防災イベント等開催事業
(3) 移住・定住・交流の促進	
☆京都移住コンシェルジュへの情報の一元化等による移住推進体制の整備	・「京都丹波・森の京都スタイル」発信事業
☆インバウンド、観光リピーター、雇用の増加に繋がる社会資本整備	(本庁予算で対応)
(4) 健康・長寿のまちづくり ～健康・長寿ナンバーワン～	
☆生活習慣病の発症及び重症化予防の推進	・なんたん健康づくりプロジェクト事業
☆高齢者の介護予防の推進	

(1) 今後の課題

今後の課題 1

「海・森の京都」の推進による魅力あふれる地域づくり

- 中丹地域では、京都縦貫自動車道の全線開通や京都舞鶴港のふ頭整備など、交通・物流基盤の整備が進み、近年は外航クルーズ船の寄港も大幅に増加している。また、森林面積が77%を占め、多くの自然公園を有し、豊富な森林資源に恵まれている。
- 北部7市町を全国有数の観光圏とするための「海の京都」や、北中部6市町を森・川・里の環境や文化を未来に受け継ぎ、活かしていく地域とするための「森の京都」の推進により、新たな観光資源の開発や地域資源を活用した新しい観光・ライフスタイルの推進、情報発信の強化などの取組を行っている。
- 「海・森の京都」をはじめとする観光・地域振興や交通基盤の整備により、観光入込客数が平成28年に400万人に達するなど着実に増加してきている。

[課題]

☆「海の京都」の推進による広域的な観光地域づくりの推進と北部連携都市圏の形成

地域の魅力を高め、発信して交流人口と観光消費額の更なる増加を図るため、滞在交流型の観光地域づくりを進めるとともに豊かな自然等を活かしたスポーツ・トレイルの推進や、クルーズ客船寄港時における地域内の周遊促進等に京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会や海の京都DMOなどと連携して取り組む必要がある。

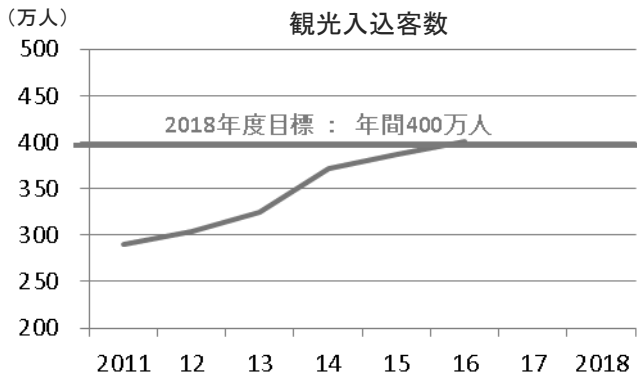
☆「森の京都」の推進による森林文化の発信や成長・循環型林業の推進

地域内外の人・ものの交流を促進するため、特色ある食材や古道等の豊かな資源を生かした地域づくりや、京都丹波ジビエのブランド化、府内産木材の安定的・定量的な供給体制づくり等に森の京都DMOなどと連携して取り組む必要がある。

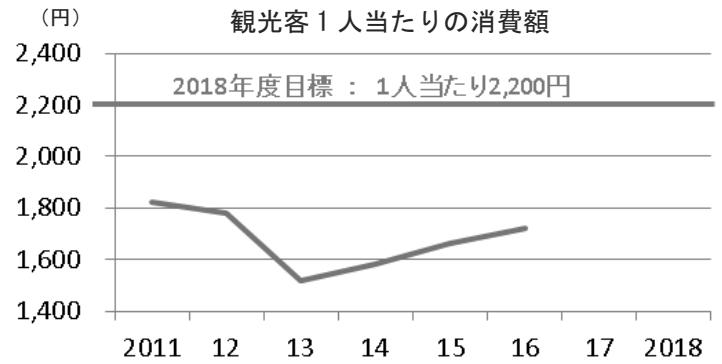
☆「海」と「森」をつなぐ広域的な誘客の促進

「海の京都」「森の京都」の結節点となっている中丹地域の特性を活かし、「海」と「森」双方の食・歴史・文化等の魅力を組み合わせて京阪神のみならず中京圏や海外からの誘客を促進する必要がある。

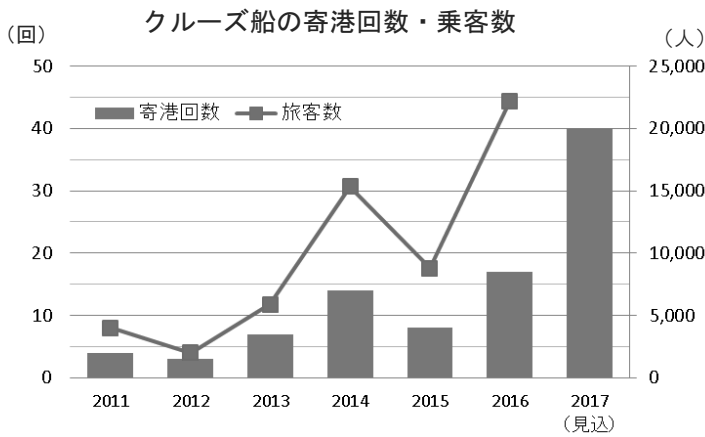
統計データ



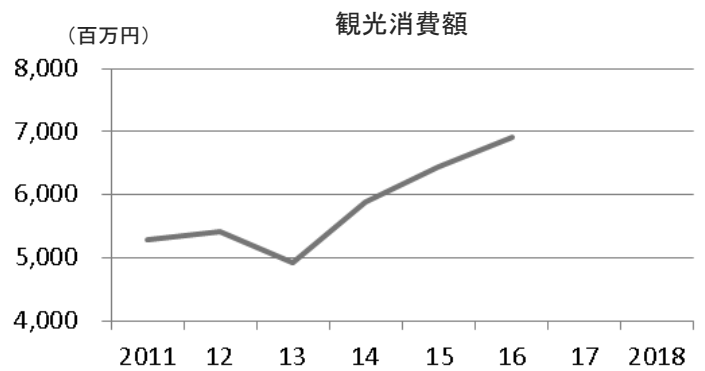
資料：観光入込客数（京都府）



資料：観光消費額（京都府）

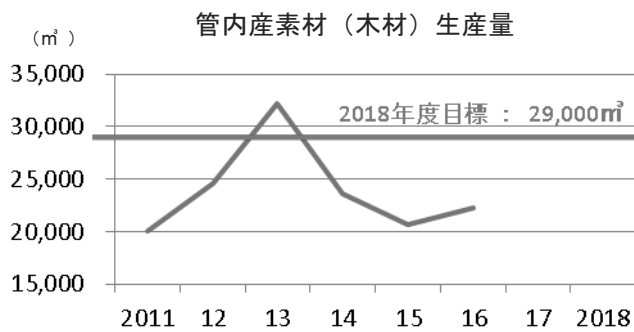


資料：京都舞鶴港おもてなし関係者連絡会議調べ（推計）



資料：観光消費額（京都府）

施策指標



資料：中丹広域振興局調べ

移住・定住対策の推進による持続可能な地域づくり

- 中丹地域の人口は2015年国勢調査でも引き続き減少しており、合計特殊出生率は府内では比較的高いものの、出生数も2013年の1,762人が2014年は1,609人、2015年は1,688人となるなど少子化傾向となっている。
- 一方、特に大学進学時を含む15歳から19歳の人口の転出が大きく、地域を担う若者世代が不足する傾向にある。
- 人手不足が深刻になり、地域における有効求人倍率が1倍を超える高い水準で推移するなか、中小企業の事業者数は社会経済情勢の変化などにより減少傾向にある。
- 農林水産業も万願寺甘とうや丹後とり貝などのブランド商品の生産拡大が図られる一方で、担い手や後継者が不足している。

[課題]

☆ 多様な価値観やライフスタイルが実現できる地域づくりの推進

充実した都市機能や企業集積と良好な自然環境が共存する中丹地域の特性を活かし、北部連携都市圏市町が実施する事業と連携し、仕事、住居、子育て環境、医療など生活に必要な情報や、世代ごとに異なる移住・定住希望者のニーズに対応できるような情報の整理・発信に取り組み、移住・定住を促進する必要がある。

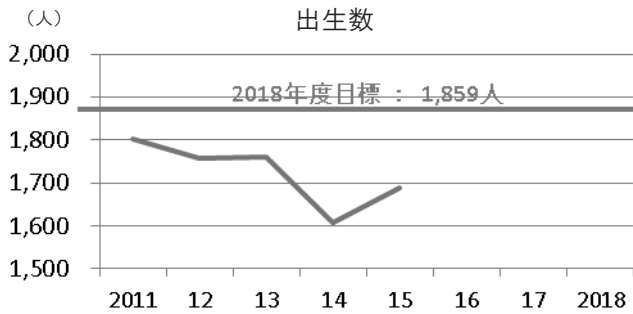
☆ 少子化対策や若者の地元定着の促進

少子化の進行に歯止めをかける環境づくりを推進するため、育児不安解消等、子育て家庭への支援を充実するとともに、地域を担う若者を育成するため、小中学生・高校生に対するキャリア教育の充実・ふるさとへの理解を深める機会の充実や、保護者の地元企業への理解を促進する必要がある。

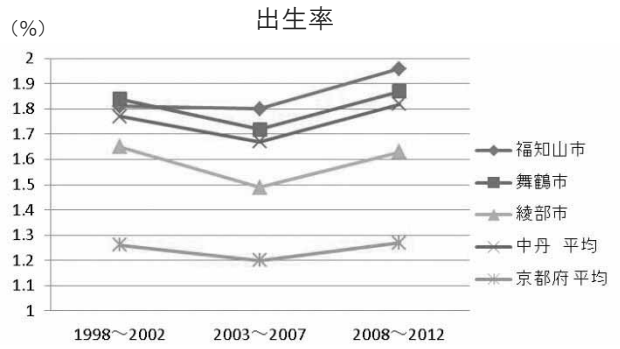
☆ 京都舞鶴港の活用など産業振興を通じた雇用促進、福知山公立大学などの教育機関や地域と連携した未来を担う人づくり

地域の発展の基盤となる産業振興を図るため、京都舞鶴港や高速道路網等のインフラを活用し、新たな地域産業の創造や京都舞鶴港のエコエネルギーポート化の推進、「北部産業創造センター（仮称）」を核としたものづくり産業の活性化を図る必要がある。また、大学生等の若者の起業・就業支援や地域の産業を支える人材の育成を進めるとともに、農業におけるブランド商品の生産拡大や野生鳥獣被害の軽減を通じて多様な担い手の育成・確保等を推進する必要がある。

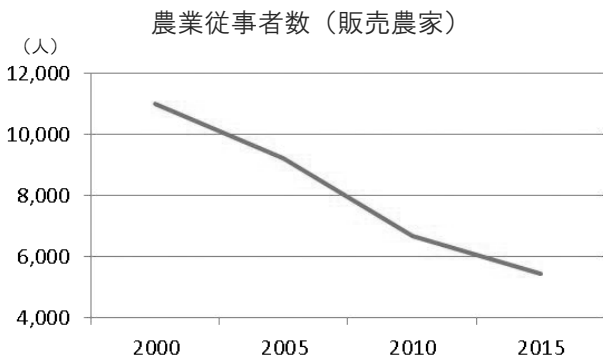
統計データ



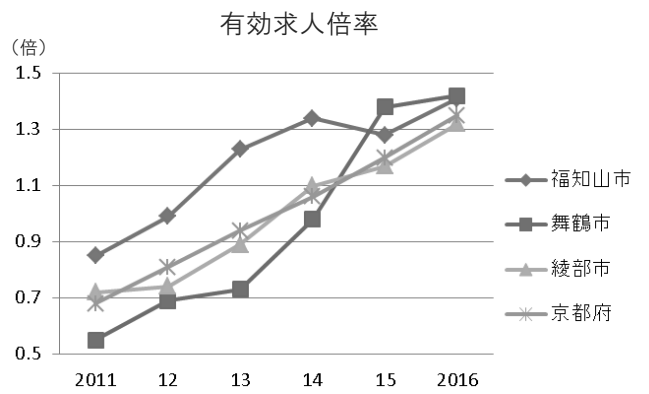
資料：人口動態統計



資料：人口動態統計

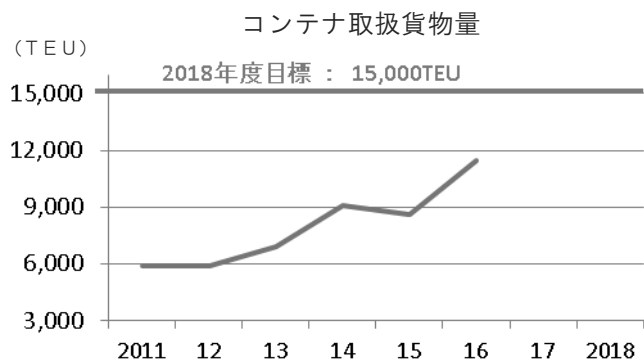
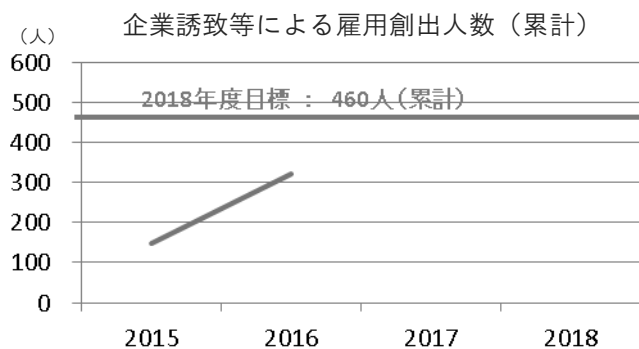
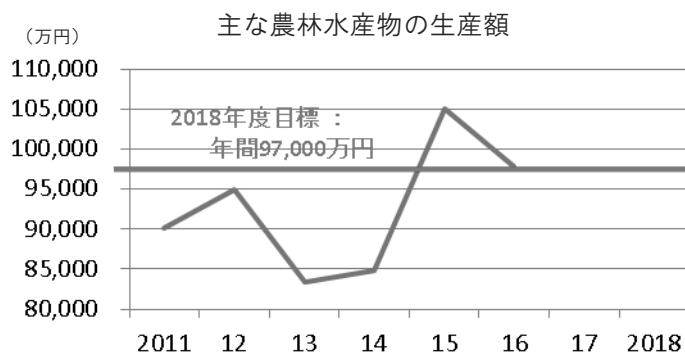
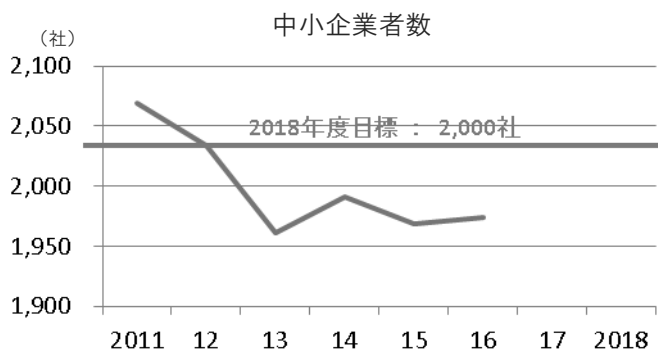


資料：農林業センサス



資料：ハローワーク月例調査をもとにした年間平均値

施策指標



安心・安全のためのソフト・ハード施策の充実

- 中丹地域では、平成16年以降、10年間で3度の甚大な災害が発生しており、大雨に備えた治水対策などを推進している。
- また、原子力発電所が隣接県に立地することから、原子力災害対策重点区域（PAZ及びUPZ）を有し緊急時の対応強化に向けた取組を進めている。
- 道路等の公共施設は、今後大量に老朽化等による大規模修繕や更新の必要性が見込まれることから、計画的な維持管理に取り組んでいる。

[課題]

☆ 水害・土砂災害や大規模地震への備え

国の由良川緊急治水対策事業と連携した河川・道路の整備、弘法川・法川・高野川などの流域における内水被害等の解消に向けた総合的な治水対策、土砂災害の被害軽減に向けた土石流や崖崩れなどを防ぐための施設整備、保水力を維持するための森林・里山・農地の保全を図るとともに、大規模地震に備える住宅の耐震化などを推進する必要がある。また、地域防災訓練や地域防災リーダーの養成を図るとともに、建設業等地域の安全基盤を支える人材の育成など災害対応力を強化することが必要である。

☆ 原子力災害への備え

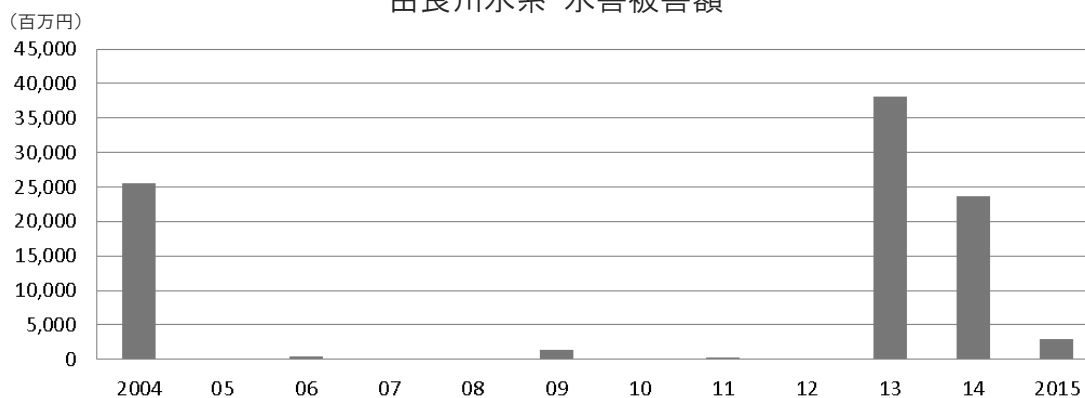
避難路の整備や広域避難訓練の実施など、原子力災害への備えを強化する必要がある。

☆ 施設老朽化への備え

老朽化が原因となる公共施設の事故を防止するためメンテナンスサイクル（調査・診断・措置・記録）を確立する必要がある。

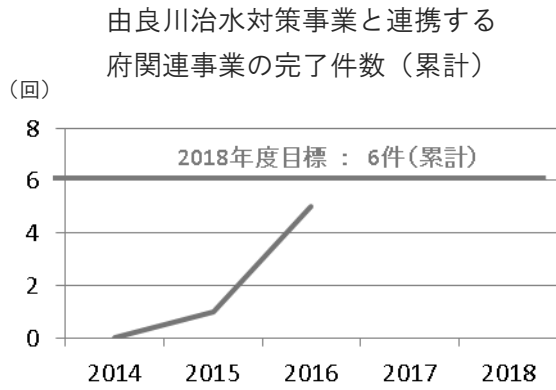
統計データ

由良川水系 水害被害額

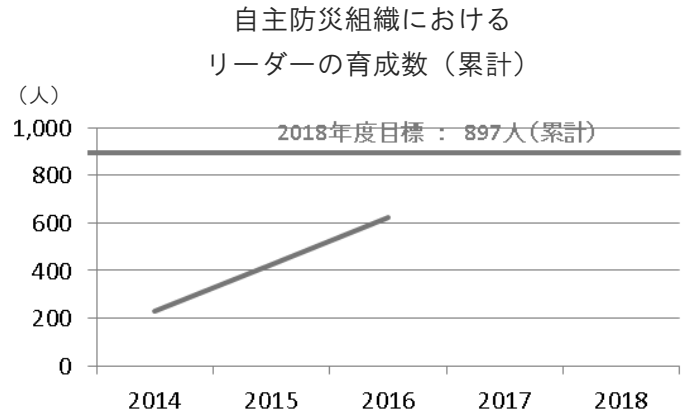


資料：水害統計

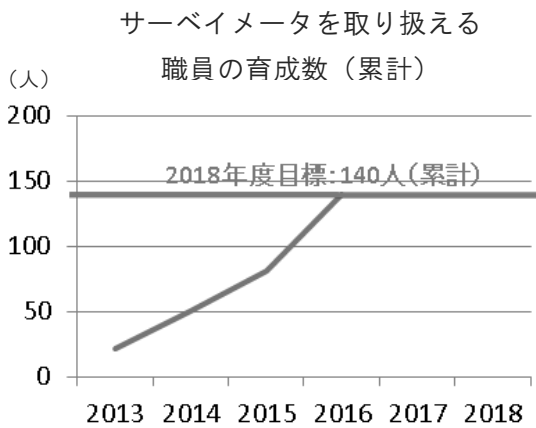
施策指標



資料：事業実績



資料：事業実績



資料：事業実績

(2) 前年度の主な取組状況

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成28年度の主な取組と進捗状況
① 暮らしの安心・安全の確保	安心・安全な暮らしを支える基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○平成16年台風23号、平成25年台風18号及び平成26年8月豪雨による浸水被害を受けた対策強化 <ul style="list-style-type: none"> ・国の由良川緊急治水対策と連携した河川・道路の整備<石原停車場戸田線(戸田橋)等13件> ○流域での総合的・効果的な対策 <ul style="list-style-type: none"> ・治山施設や保安林の整備推進<整備着手7地区、完成6地区> 等 ○災害時の被害を軽減するため河川整備等を実施<宮ノ谷川(舞鶴市丸田、砂防堰堤)等> ○河川防災カメラ等による防災情報の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・府管理河川の監視体制を強化するため監視カメラや水位計を運用開始<弘法川等合計4基> ○暮らしを支える安全のまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・「京都の道・長寿プラン」に基づき定期的な公共施設の点検を実施<橋梁128橋、舗装23.8km、法面45箇所> 等
	府民と共に取り組む防災・減災、防犯対策等の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で取り組む防災・減災対策 <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災リーダー研修会を開催し、災害時に地域住民先導等の役割を担う地域防災リーダーを養成<養成人数:194人(累計622人)> 等 ○災害時に援護が必要な人への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉施設等での入居者の避難訓練等を実施<実施施設:68施設> 等 ○生活者の安心・安全の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・自転車盗対策及び自転車任意保険加入促進に向け、街頭啓発を実施<街頭啓発:5回> 等
	危機事象に即応する危機管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○原子力災害をはじめとした災害対応の強化や関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・府民参加による広域避難訓練の実施、サーベイメータの操作技術や原子力防災の基礎知識を持った職員を養成<養成人数:28人(累計139人)> 等 ○京都府中丹東保健所の移転・建替事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・健康危機管理に対応できる庁舎の整備を推進<庁舎建設工実施中> ○感染症・家畜伝染病対策等の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・介護事業所等職員を対象とした感染症対応研修会を開催し、事案発生時に迅速に対応する感染予防リーダーを養成<養成人数:195人> 等
② いきいき・健やかに暮らせる環境の整備	安心して子どもを産み・育てることができる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○少子化に歯止めをかける環境づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者(シニア)等と子育て家庭等との「交流会」や「知恵袋塾」の開催<交流会:1箇所、知恵袋塾:10箇所> ・医師、臨床心理士、助産師等で編成した「プラスワン・エンジェル隊」を子育て広場等に派遣し、子育て応援講話や子育て悩み相談を開催<開催回数:8回> 等 ○発達障害児への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・保育士、幼稚園教諭等を対象に「発達障害児支援リーダー養成研修会」を開催し、園における発達障害児支援を中心的に担うリーダーを養成<養成人数:40人> 等
	医療・介護・福祉の充実と健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○中丹地域医療再生計画の着実な推進 <ul style="list-style-type: none"> ・中丹地域にふさわしい医療機能の分化と連携のとれた効率的でかつ質の高い医療提供体制を構築するため、「中丹地域医療構想調整会議」を開催 等 ○病気予防の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学校や企業と協働して、がん予防に係る出前講座を開催<開催回数:30回、参加人数:2,753人> 等 ○医療・介護・福祉を一体化した地域包括ケア体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・府民を対象とした認知症予防講演会等の開催<開催回数:2回、参加人数:230人> 等 ○高齢者の元気な地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ・集落の見守りや交流活動を行うふるさとを守る絆ネット推進事業の推進<新規協定:6協定> 等 ○障害のある人の生活支援と社会参画・交流の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所職員を対象とした販路拡大、マーケティングに係る研修会を開催<開催数:6回> 等 ○自殺を防ぐ環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・現状理解や相談機関の紹介など、地元イベント等で府民に啓発を実施<実施回数:3回> 等

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成28年度の主な取組と進捗状況
③産業の振興と定住の促進	■『森の京都』づくりの推進等による森林文化の発信と林業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○「森の京都」拠点の魅力向上とネットワーク強化 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や実践者等による新たな地域の魅力の発掘と強化による拠点形成に向けた取組を先導（綾部市東・西部、大江山・三岳山・宝山）等 ○「森の京都博」を通じた森林や木の伝統文化の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・「全国育樹祭」関連イベントを開催し、中丹の魅力や森林の伝統・文化を全国に発信 ＜育樹祭行事集客数:17,800人＞ 等 ○モデルフォレスト運動等森林保全活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域や団体等へモデルフォレスト運動等への参加の働きかけ強化による運動の推進 ＜参加者数:1,201人＞ 等 ○森林整備から木材利用の拡大まで一貫した成長・循環型林業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・施業路の開設や高性能林業機械の活用など、間伐の効率化等により管内素材生産量を拡大 ＜素材生産量:22,290m³＞ 等
	農業・水産業の振興と魅力ある中丹の「食」づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○野生鳥獣害対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・未整備地区への防護柵の新設＜防護柵延長:68.3km＞ 等 ○農業・水産業を支える基盤整備の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・大江南域基幹農道[福知山市大江町千原～南山]＜平成28年度:南山工区道路工L=200m完了＞等 ○農林水産業の多様な担い手育成・組織づくりへの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・「京都農人材育成センター」と連携し、新規就農者・就業者を確保＜新規就農者・就業者:23人＞等 ○ブランド製品の生産拡大とブランド力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・豆類、野菜(万願寺甘とう、紫ずきん 等)、茶、栗、水産物(丹後とり貝、岩がき)の生産拡大 ＜生産額:934百万円＞ 等 ○魅力ある中丹の「食」づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・京都丹波ジビエのブランド化を図るため、「京都府中丹地域における野生鳥獣肉生産工程管理制度」を創設 等 ○魅力ある直売所を核とした地産地消と農商工連携等の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・農商工連携や6次産業化により新たな地域産品を開発＜地域産品開発数:3件＞ 等
	■地域に根ざす中小企業等の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○北京都ものづくりパークを核としたものづくり産業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・「北部産業技術支援センター・綾部」再整備計画策定に向け、地元意見の調整、集約など取組推進 ○中丹新ビジネスサポートの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業応援隊による創業・第二創業の支援＜創業件数:15件＞ 等 ○中小企業経営の下支え <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業経営の下支えによる事業者数減少の抑止＜中小企業者数:1,974社＞ 等
	■京都舞鶴港や高速道路網をいかした物流拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ○日本海側拠点港「京都舞鶴港」の機能強化に向けた整備推進 <ul style="list-style-type: none"> ・舞鶴国際ふ頭の物流ターミナルとしての機能を拡充するため、国直轄工事(岸壁70m整備)と連動したふ頭用地整備工事と多目的クレーン整備推進 等 ○京都舞鶴港を通じた交易の活発化 <ul style="list-style-type: none"> ・港周辺の北近畿地域を中心に重点的な集荷活動を行う＜コンテナ取扱量:11,493TEU＞ 等
	■定住を促進するための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な移住促進に向けた取組推進 <ul style="list-style-type: none"> ・管内3市における移住促進特別区域の指定による支援＜指定区域数:18地区＞ 等 ○産学公連携による雇用の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致による当該年度雇用創出＜雇用創出人数:累計320人＞ ○総合就業支援拠点「北京都ジョブパーク」と連携した就職支援 <ul style="list-style-type: none"> ・求職者のニーズに応じ、就職相談やセミナーの実施、ハローワークによる職業紹介等を実施 ＜就職内定者数:1,228人＞ 等

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成28年度の主な取組と進捗状況
④交流人口の獲得・拡大と地域の活性化	■「『海の京都』づくり」の推進等による広域観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○誘客戦略の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・「海・森の京都」の魅力向上による観光集客力の強化を目指した取組による観光入込客数等の増加<観光入込客:400万人、観光消費額:1,724円/人> 等 ○外航クルーズの誘致拡大と周遊・滞在型観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・対岸諸国との定期航路の拡充、国際フェリーの直行航路化、国際クルーズの寄港増を推進<定期航路数:4航路、クルーズ客船の寄港決定数:41寄港> 等 ○中丹スポーツ観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・SEA TO SUMMIT開催等によるアウトドアスポーツ愛好者の誘客<参加者数:4,060人> 等 ○観光情報の発信力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・地域内外のイベント等で「海・森の京都」の情報発信<情報発信回数:22回> 等
	■「人・もの・情報」の交流・連携基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○「人・もの・情報」の交流・連携基盤づくり <ul style="list-style-type: none"> ・国道175号[舞鶴市上福井]:道路改良工事実施 ・小浜綾部線[綾部市五津合町～同市八津合町]:用地測量実施 等 ○北陸新幹線京都府北部ルート実現に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・機運醸成に向けて地元企業トップ等を対象とした講演等を実施 ○JR山陰本線・福知山線・舞鶴線・小浜線及び京都丹後鉄道の利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・管内職員による積極的なJR及び京都丹後鉄道の利用<利用人数:20,047人> 等
	■過疎化・高齢化が進む集落の維持・再生	<ul style="list-style-type: none"> ○里力再生に向けた集落リーダーの育成とむらづくり <ul style="list-style-type: none"> ・「命の里」事業による農村再生活動や中丹ふるさと再生推進事業等の取り組みを通じ、集落リーダーの育成や集落の維持、再生・自立、発展に向けた支援<支援集落数:79集落> ○都市農山漁村交流活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・都市住民との交流につながる農家民宿の開設を推進<府の支援による農家民宿の開設数(累計):31軒(新規4軒)>
⑤共生・協働のまちづくり	人権の尊重と多様な主体による地域社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、だれもが自分らしく生きることのできる社会づくり <ul style="list-style-type: none"> ・管内職員人権問題職場研修を各総合庁舎(3会場)で開催し人権意識の高い職員を養成する ○地域で輝きたい女性の応援と男女共同参画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・輝く女性地域プラットフォームによる事業推進 ○府民との協働によるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・府民公募型整備事業の実施<地域主導型公共(継続)事業:5地域> 等 ○地域力再生プロジェクト等による地域力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・地域力再生プロジェクト支援事業交付金による支援<支援団体数:60団体> 等 ○大学等との連携による地域課題解決の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・振興局や管内3市の職員等による連携会議を開催 ○地域の魅力の再発見と積極的な情報発信の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「中丹“絆”フェスタ」開催<満足度97%>
	郷土を愛し、未来を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○地域を担う若者の定着とリーダーの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・海の京都未来っ子プロジェクトの実施<参加者:1,120人> 等 ○大学等と連携し地域で学び働く意欲ある若者を支援 <ul style="list-style-type: none"> ・中丹地域での仕事と地域活動等をセットで体験できる「中丹ローカルインターン」を実施<プログラム参加者:217人> 等 ○セルフアセッサー参画による府市合同新採職員研修の実施<研修実施:4回>
	地域の自然・環境・文化を守りはぐくみ、平和を愛する風土づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○国定公園等の優れた自然・環境の保全と魅力発信 <ul style="list-style-type: none"> ・与保呂川(舞鶴市常)の河川公園の整備:工事実施 ○快適な環境の整備と持続可能な循環型社会の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・道路照明の省電力化等、環境改善を実施<道路照明灯のLED化:30基> 等 ○地域文化活動への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術振興・発信事業補助金等を活用した文化活動支援<支援件数:7件> ○地域固有の文化の保護と発展への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・地域が主体的に取り組む地域固有の文化の継承など地域の多様な絆を育む文化事業等の支援<支援件数:12件>

(3) 数値目標に対する施策指標の進捗状況

施策指標	進捗率 (%)	進捗率グラフ				
		0%	25%	50%	75%	100%
地域振興計画						
中丹						
1	由良川治水対策事業と連携する府関連事業の完了件数(累計)	83.3				
2	自主防災組織におけるリーダーの育成数(累計)	58.7				
3	サーベイメータを取り扱える職員の育成数(累計)	99.2				
4	出生数増	-76.3				
5	新たに介護施設等で介護サービスの提供に携わる職員の数	80.5				
6	管内産素材生産量	16.1				
7	主な農林水産物の生産額	117.4				
8	中小企業者数	33.3				
9	京都舞鶴港におけるコンテナ取扱量	56.7				
10	企業誘致等による雇用創出人数(累計)	69.6				
11	観光入込客数	100.0				
12	観光客の一人当たり消費額	30.2				
13	道路事業実施箇所件数(年間)	100				
14	府の支援による農家民宿の開設数(累計)	111.1				
15	地域力再生交付金等を活用したプラットフォームの数(累計)	60.0				
16	自分の夢や目標を持っている子どもの割合(小学校6年生)	—				
17	自分の夢や目標を持っている子どもの割合(中学校3年生)	—				
18	地域が主体的に取り組む文化活動への支援件数(年間)	—				

※ 基準値からの増減を目標とする指標等進捗率が表せない指標については、進捗率欄及び進捗率グラフ欄は「—」としている。

(4) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2016年9月] の「今後の課題」について、平成29年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

中丹地域振興計画

今後の課題	主な事業等
(1) 「海・森の京都」の推進による魅力あふれる地域づくり	
<p>「森の京都」づくりの推進による森林文化の発信や成長</p> <p>・循環型林業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「森の京都」拠点の魅力向上とネットワーク強化 ◇「森の京都博」を通じた森林文化の発信 ◇京都丹波ジビエのブランド化 ◇成長・循環型林業の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ○「浪漫古道」づくりと大江山万燈絵巻事業 ○中丹「緑の幼稚園」育成事業 ○「京都丹波ジビエ」×α戦略事業 ○中丹地域木材供給力集中強化事業
<p>「海の京都」づくりの推進による広域観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域の豊かな自然等を活かしたスポーツ・トレイルの推進 ◇クルーズ客船の更なる誘致拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ・トレイル推進事業 ○クルーズ客船おもてなし誘客推進事業 ○「海・森の京都」を食いつくせ！フェスタ事業
(2) 移住・定住対策の推進による持続可能な地域づくり	
<p>総合的な移住・定住促進に向けた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇北部地域連携都市圏市町の取組の推進 ◇移住・定住希望者に対するワンストップ対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○「京都中丹いなか暮らし」魅力発信事業
<p>少子化対策や若者の地元定着の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇育児不安解消等の子育て家庭への支援の充実 ◇若者が地元の魅力を発見し愛着を深める機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と共生 子育て力アップ推進事業 ○海の京都未来っ子プロジェクト事業 ○高校生ミライカレッジ事業

<p>産業育成による雇用創出や未来を担う人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇産学公連携による雇用創出 ◇就職・就学支援 ◇「北部産業創造センター（仮称）」の整備 ◇新産業育成、中小企業の育成・支援 ◇農林水産業におけるブランド製品の生産拡大や多様な担い手の育成・確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○北京都の「しごと」「くらし」まるごと体感事業 ○茶どころ中丹魅力発信事業 ○万願寺甘とう生産者拡大支援事業 ○「丹波くり」ブランド・アップ支援事業 ○中丹ふるさと再生推進事業
<p>(3) 地域の未来を拓く礎づくり</p>	
<p>北部地域が飛躍する環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇京都舞鶴港や高速道路網を活かした物流ネットワークの形成 	<p>(本庁予算で対応)</p>
<p>北部地域連携都市圏の形成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇北部地域連携都市圏市町が取り組む広域連携事業の後押し等により、連携都市圏の形成を支援 	<p>(本庁予算で対応)</p>
<p>安心・安全の地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇国の由良川緊急治水対策事業と連携した道路・河川の整備 ◇弘法川・法川床上浸水対策特別緊急事業の実施 ◇原子力防災対策のための基盤整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害に強い中丹地域づくり事業 ○地域と共生 田んぼダム実証事業

丹後地域振興計画

(1) 今後の課題

今後の課題 1

丹後地域の活性化を牽引する観光振興

- 丹後地域への観光入込客数は、平成15年は約630万人であったが、近年は海外も含めた他の観光地との競争激化の中で減少傾向で推移。しかし、平成27年の京都縦貫自動車道全線開通、平成28年の山陰近畿自動車道（野田川大宮道路）の開通や「海の京都博」の取り組み、「海の京都DMO」の設立などにより、観光入込客は2年連続して600万人を超え、観光消費額も大きく増加した。ただし、日帰り客の増加により宿泊率は減少
- 丹後産コシヒカリ、ブランド京野菜、ナシ、ブドウ、メロン、茶、丹後とり貝、丹後ぐじなど丹後地域の強みを活かした製品の増強や丹後王国「食のみやこ」を拠点とした丹後の「食」の魅力発信を進めるとともに、それらを支える基盤づくりとして、「丹後農業実践型学舎」、「海の民学舎」等による新規就業支援や後継者確保、農業経営の規模拡大による農地集積の加速化など担い手の育成・支援を行い、食を活かした産業振興を推進

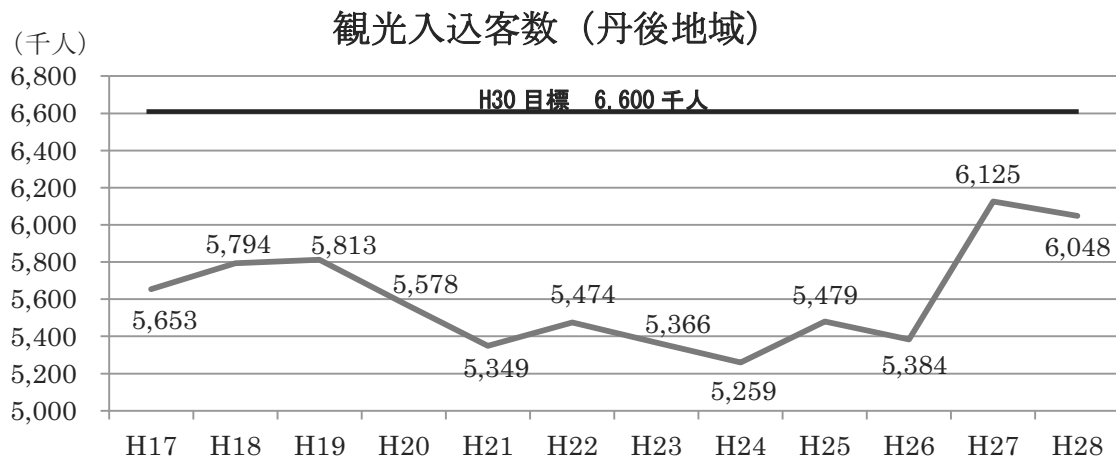
[課題]

☆ 「海の京都」の取組促進による滞在交流型の観光地域づくり

「海の京都DMO」と連携し、豊富な観光資源を更に磨き上げ、「丹後地域ならではのブランド」を築き、これらを活用した体験プログラムの開発や点在している観光資源を鉄道やバス、船等を活用して周遊するシステムを構築するとともに、宿泊施設の受け入れ環境の整備等外国人が安心して不便なく滞在できる環境づくりを行い、経済波及効果の大きい滞在交流型の観光地域づくりをさらに推進して、一人当たりの観光消費額を増やしていくことが必要

☆ 観光との連携による食関連産業の創出

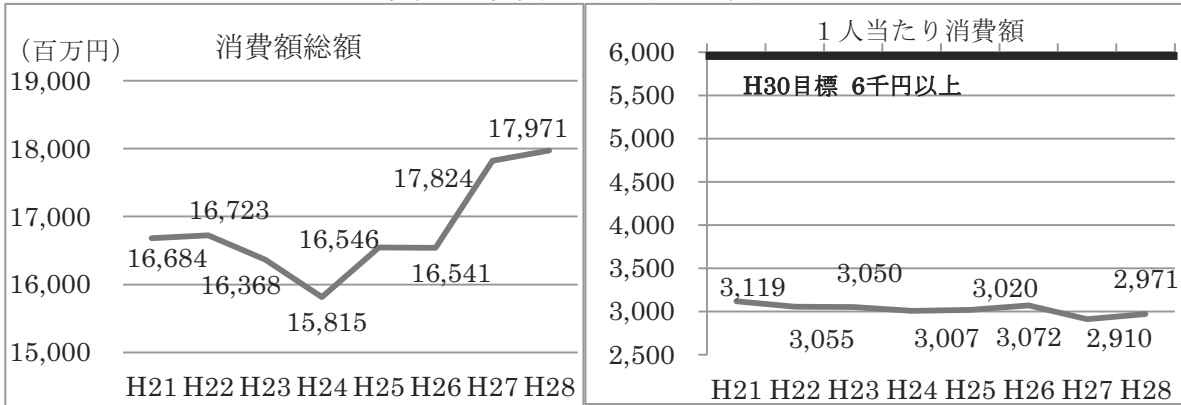
丹後王国「食のみやこ」を10次産業化の拠点として「食」の開発・販売を推進するとともに、「食」に関連する人材育成を展開し、観光との連携による食関連ビジネスの創出を進めることが必要



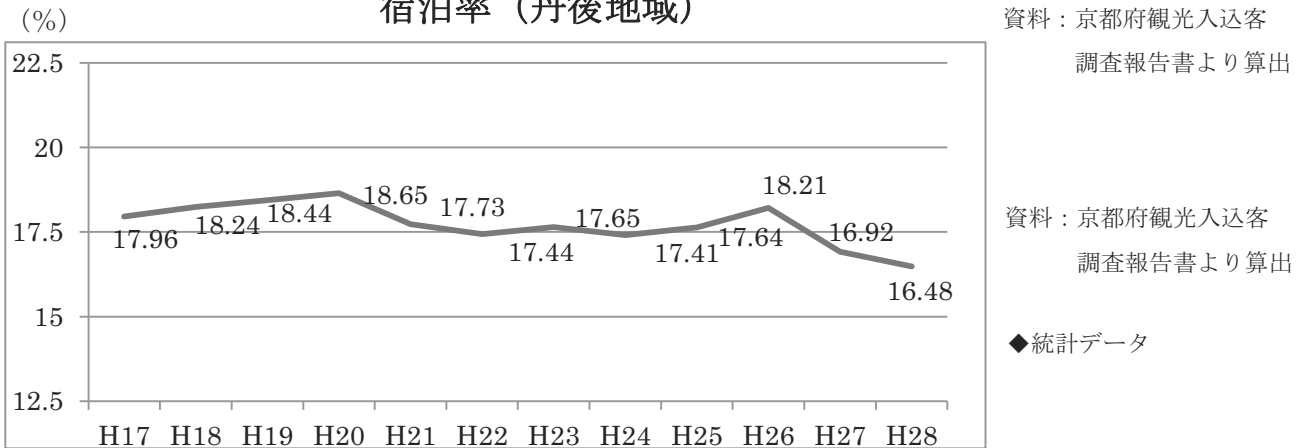
資料：京都府観光入込客調査報告書

□ 施策指標

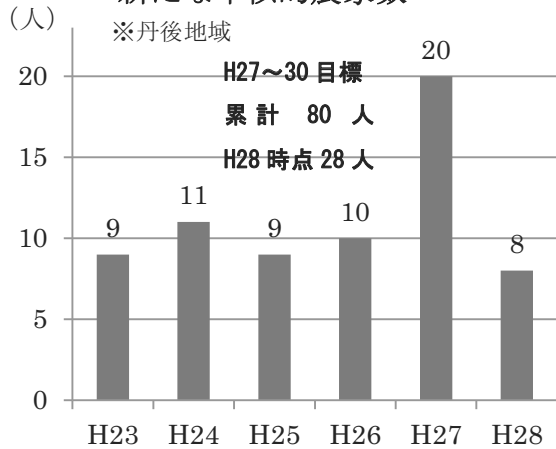
観光消費額（丹後地域）



宿泊率（丹後地域）

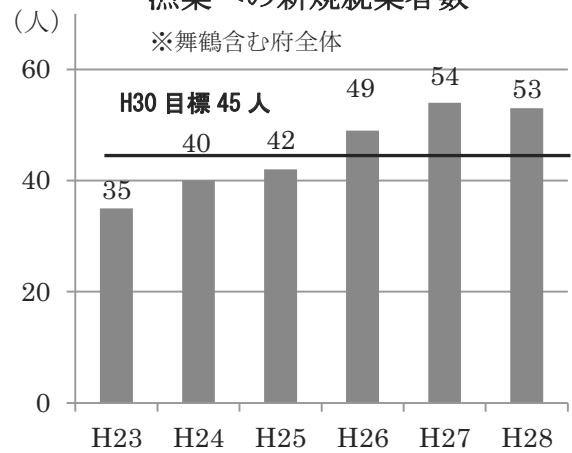


新たな中核的農家数



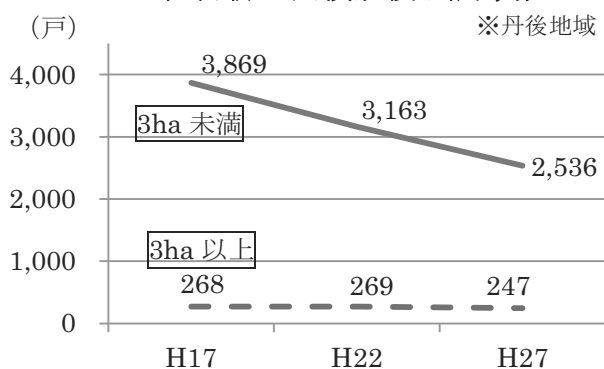
資料：京都府丹後広域振興局 農林商工部調べ □施策指標

漁業への新規就業者数



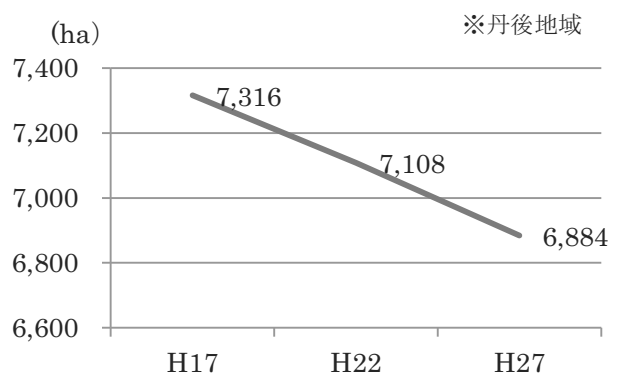
資料：京都府水産事務所調べ □施策指標

経営耕地面積規模別農家数



資料：近畿農林水産統計年報 ◆統計データ

耕地面積



資料：近畿農林水産統計年報 ◆統計データ

今後の課題 2

ものづくり産業等地域産業の振興

- 平成 24 年末以降、我が国の経済は持ち直しに転じているが、中小企業の多い丹後地域は、個人消費の伸び悩みや電気料金の値上げなどの影響により、景気回復の実感が得られていない状況
- 丹後地域は約 300 年の伝統を誇る「丹後ちりめん」の産地であり、織物業が基幹産業の一つとして地域経済を支えてきたところであるが、消費者の生活スタイルの多様化の中、和装需要の低迷等により、平成 28 年の丹後ちりめんの生産数量は 31 万反（ピーク時：920 万反（昭和 48 年））となるなど厳しい経営環境
- 機械金属業においても、高付加価値の商品づくりや企業競争力強化のための高度な加工技術をもった技術者の確保、高度加工に対応できる新規設備の導入等が求められており、平成 20 年 10 月に、中小企業のための総合的な拠点となる「丹後・知恵のものづくりパーク」を開設し、府北部のものづくり人材の育成や技術支援、新規産業の創出を支援
- 更に、進学等を機に丹後を離れる若者が多く、地域産業を担う人材確保が困難な状況であることから、平成 25 年 4 月に「北京都ショブパーク」を開設、北部地域への U・I ターン促進の取組を進めており、U・I ターン者の就業者数は増加傾向にあるが、業種によっては人手不足の状況

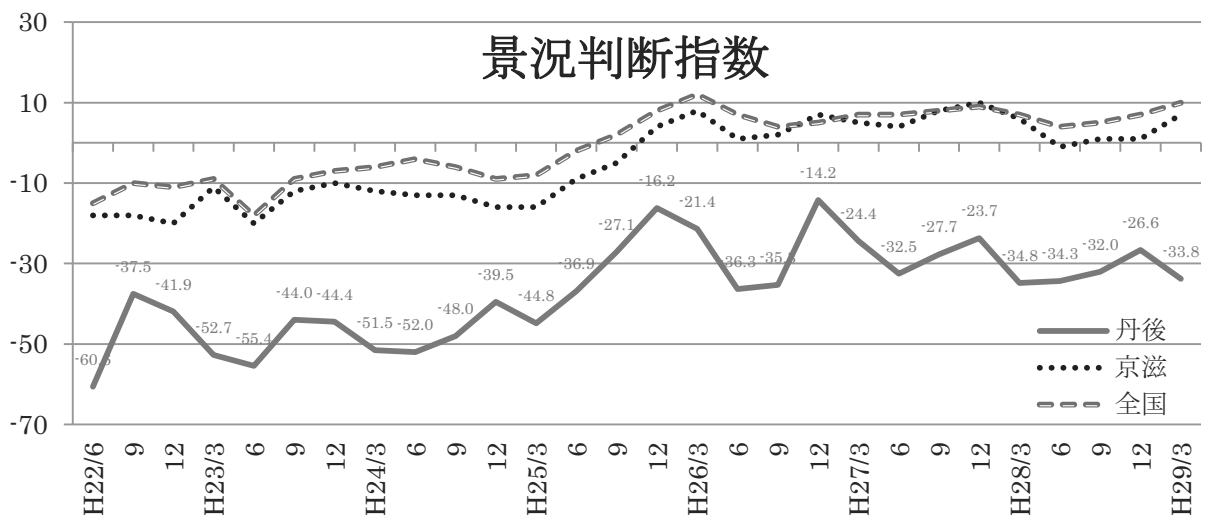
【課題】

☆人材確保のための U・I ターン対策等

丹後地域に戻りたい、住みたいと考える若者等に対して、積極的に地域情報や企業情報等を発信することにより、U・I ターン等を促進するなど、北部産業を担う人材の確保対策が急務

☆「丹後ちりめん創業 300 年」などの取組による丹後ブランドの発信

2020 年に迎える「丹後ちりめん創業 300 年」や平成 29 年 4 月の日本遺産認定を契機とし、織物文化と地域の魅力発信等を通じた「丹後の地域産業全体のブランド力」のアップ、子どもや若者が「夢」や「希望」を持てる地域づくりが必要

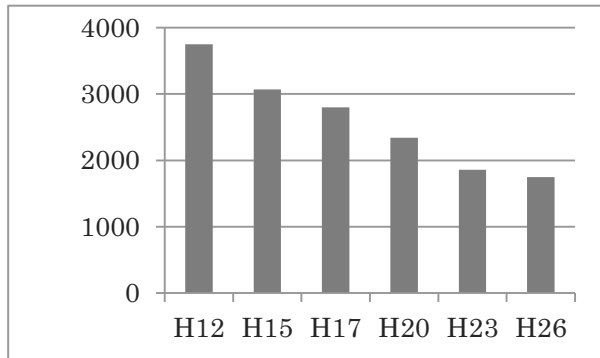


資料：民間金融機関調べ

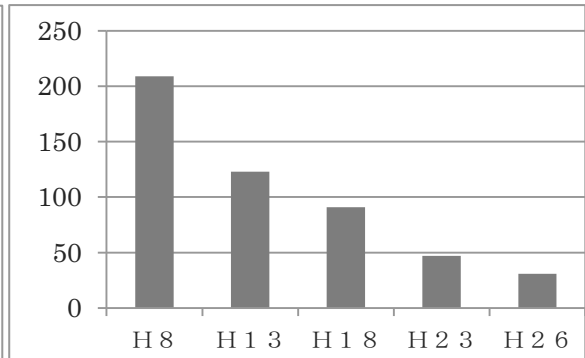
◆統計データ

丹後織物産地の推移

事業所数



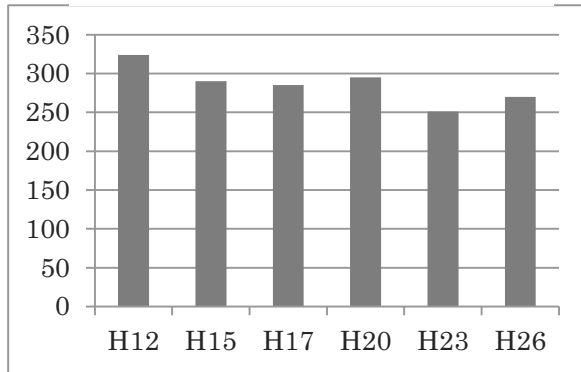
ちりめん生産量 (万反)



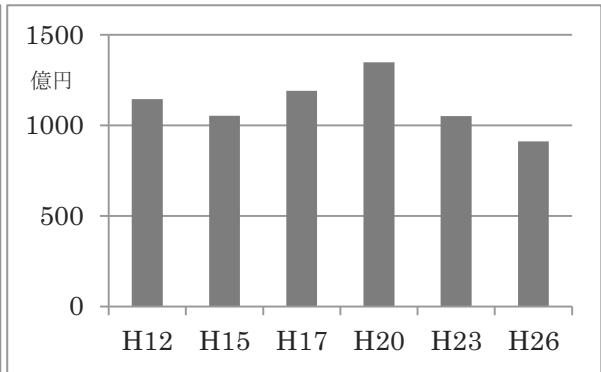
資料：工業統計調査（京都府の工業） ◆統計データ
 ※H23は経済センサス - 活動調査
 ※H26は経済センサス基礎調査で調査方法が異なるため参考値
 （総務省・経済産業省）

資料：丹後織物工業組合調査 ◆統計データ

丹後機械金属業事業所数推移



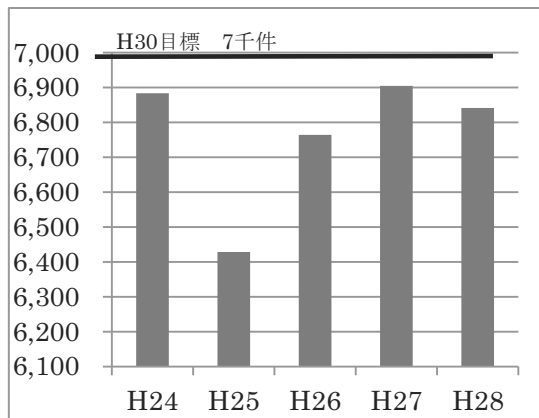
丹後地域製造品出荷額(4人以上事業所)



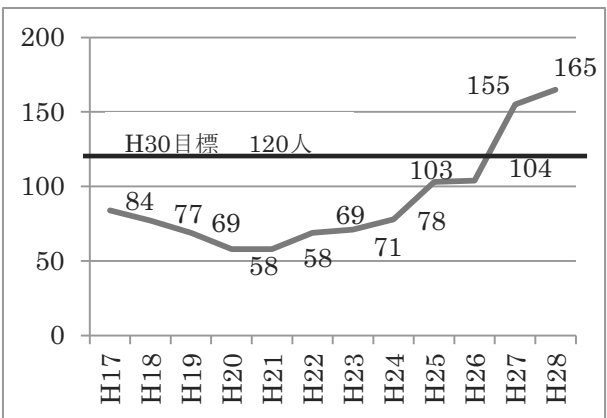
資料：工業統計調査（京都府の工業） ◆統計データ
 ※H23は経済センサス活動調査
 ※H26は経済センサス基礎調査で調査方法等が異なるため参考値（総務省・経済産業省）

資料：工業統計調査（京都府の工業） ◆統計データ
 ※H23は経済センサス - 活動調査
 （総務省・経済産業省）

丹後・知恵のものづくりパーク
 技術相談・企業支援件数



U・Iターン就業者数



資料：京都府織物・機械金属
 振興センター調べ □施策指標
 （新計画）

資料：北京都ジョブパーク調べ □施策指標
 （新計画）

府民生活の安心・安全の確保等

- 日本海に面している丹後地域では、津波に対する防災対策が求められており、平成29年3月に公表した津波浸水被害等に対応する防災訓練等を実施
- 医師をはじめとする医療従事者が不足しているため、府立医科大学附属北部医療センターを「北京都安心医療拠点」とし、医師派遣機能強化など地域医療体制の充実を図る取組を展開
- 丹後医療圏域の死因の第1位である「がん」の早期発見、早期治療のため、がん検診受診勧奨を進めるとともに、府立医科大学附属北部医療センターで診断から治療まで一体的に実施できるがん診療棟を平成32年春の診療開始に向けて整備
- 高齢化が府内で最も進む中で、認知症や慢性疾患を抱えた高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療や介護、福祉の各サービスが一体的に提供できる地域包括ケアの環境整備と人材確保を支援
- 丹後地域は、20～30歳代の人口比率が府平均と比較して低率であるとともに、年々減少の一途となっており、地域の活性化を牽引する次世代の^{けん}人材が不足

〔課題〕

★ 地域の実情に応じた防災対策の推進と医療・介護・福祉の更なる充実

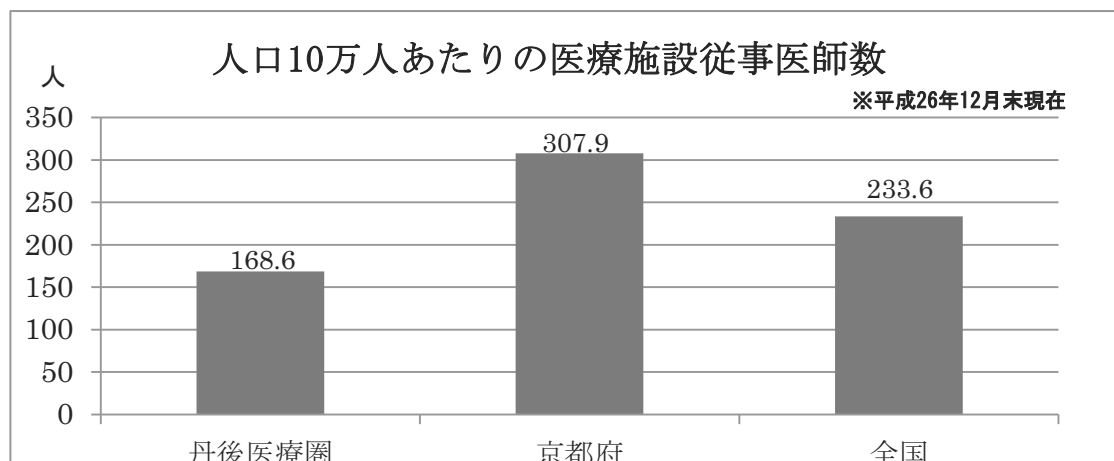
地震による津波、雪害等地域特有の災害などに対処するため、住民の力を結集した取組をまちづくりの段階から進め、ソフト・ハード両面から地域の安心・安全を確保するとともに、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、医療・介護・福祉を更に充実することが必要

★ 健康長寿に向けた生活習慣病の発症予防、重病化予防の取組

丹後地域は、食塩摂取量が高く、他地域に比べ日常生活における平均歩数が少ないなど、生活習慣病の発症リスクが高いため、地域住民対象の取組と併せて、事業所訪問等により、働き世代を対象に生活習慣病の発症予防、重症化予防の取組が必要

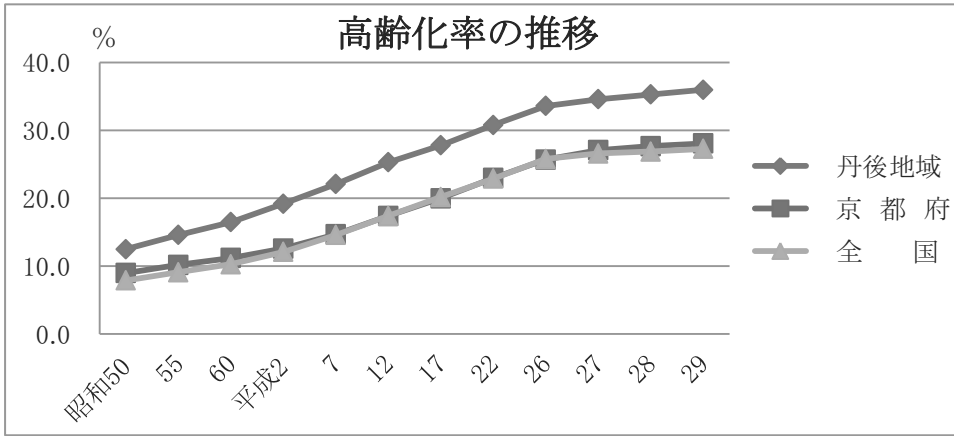
★ 若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり

10～20年後の丹後を見据え、未来を担う子どもたちに丹後の自然・歴史・文化を学習・体験する機会等を提供することで、ふるさとへの愛着を高め、地元定着者を増やすしくみづくりが必要



資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

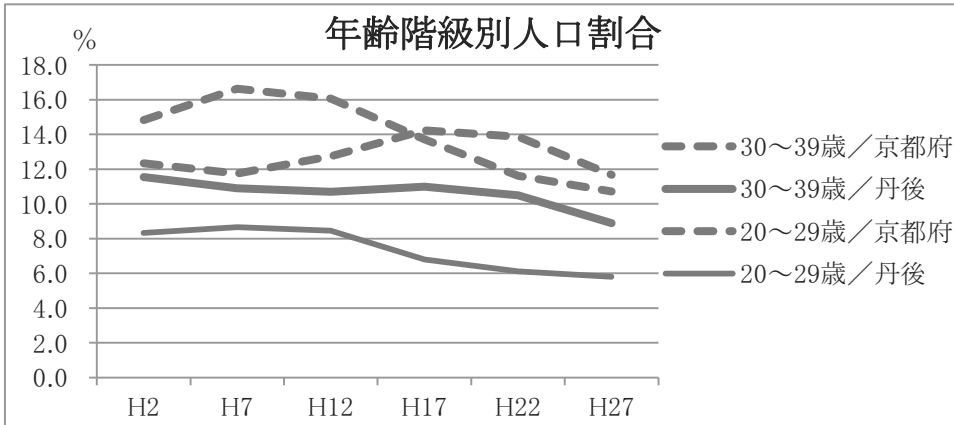
◆統計データ



資料

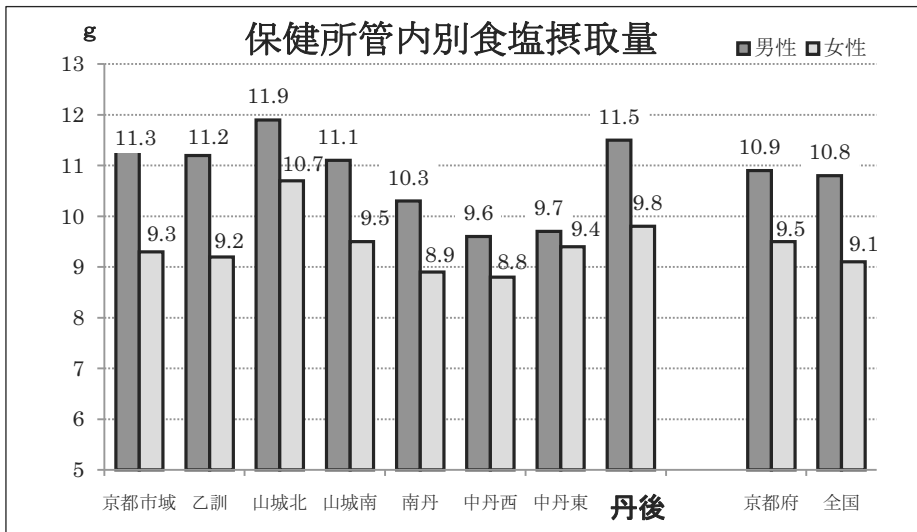
- ・平成22年までは国勢調査
- ・平成26～29年「全国」は総務省推計人口
- ・平成26～29年「京都市・丹後地域」は住民基本台帳に基づく市町からの報告数値

◆統計データ



資料：国勢調査

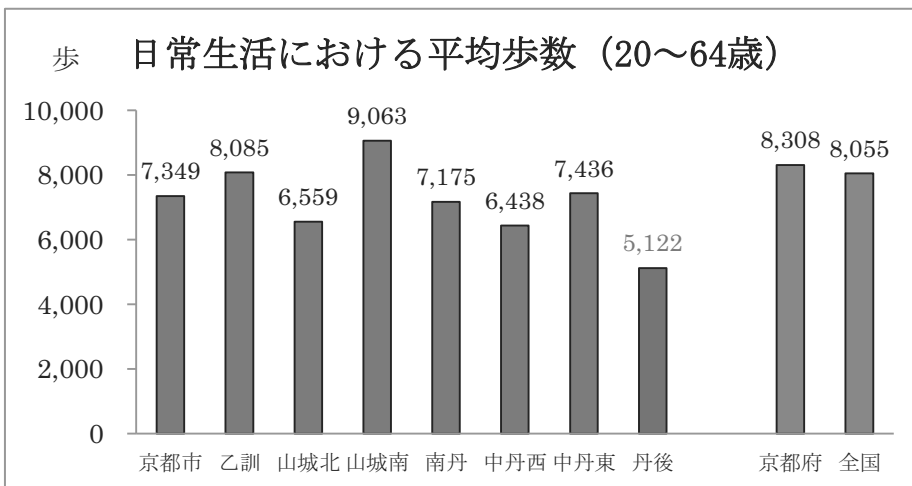
◆統計データ



資料：平成23年京都市民健康栄養調査

◆統計データ

※平成26年度京都・健康寿命向上対策事業報告書でも、丹後地域は「保存食、発酵食、練り製品等で塩分の高い食事が多い」と報告



資料：平成23年京都市民健康栄養調査

◆統計データ

※平成26年度京都・健康寿命向上対策事業報告書でも、丹後地域は「交通手段には自家用車が欠かせず、運動量が少ない」と報告

(2) 前年度の主な取組状況

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成28年度の主な取組と進捗状況
① 丹後地域の活性化を牽引する観光振興	■「海の京都」構想の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の京都」の戦略拠点と調和した基盤整備の推進(地域構想推進美観事業 9件) ・新たな観光プログラム等の積極的広報による誘客(体験プログラム等参加者数 15,278人) ・中京圏・京阪神の旅行会社等ファミトリップ・商談会の実施(旅行会社19社、雑誌社等メディア2社) ・丹後王国「食のみやこ」における10次産業化拠点に向けた整備 ・食関連ビジネスを推進する丹後地域アグリネットの運営 ・丹後産コシヒカリ特A獲得に向け、栽培管理の徹底を図る情報発信等の取組を実施 ・農商工連携等の取組を支援(20件) ・鹿、猪肉の安定供給を促進(管内25店舗で提供) ・丹後ばらざし食べ歩きマップやポスター等により情報発信 ・ブランド水産物の生産拡大を推進するとともに、「丹後とり貝」増産プロジェクト検討を開始
	■「食」を支える基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後農業実践型学舎や担い手養成実践農場等による担い手の育成 ・老朽化した基幹水利施設(頭首工)の改修(1地区継続実施) ・防護柵設置、捕獲講習会、兵庫県等との連携による広域捕獲など、有害鳥獣対策を推進 ・「海の民学舎」を運営し、第1期生7名、第2期生6名の研修を実施 ・沿岸域の環境保全を図り、アワビ・サザエや稚魚を育む藻場1箇所を造成
	「観光」を支える基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・山陰近畿自動車道・大宮峰山道路の事業促進を支援
② ものづくり産業等地域産業の振興	エコミック・ガーデニング方式等による丹後の中小企業成長・発展支援	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業応援隊等による経営サポート(中小企業応援隊による伴走支援 6,975件) ・各種支援策を活用した新たな分野・新事業に挑戦する中小企業を応援(18件) ・「丹後ちりめん創業300年」を見据えた事業実施(地元高校生とのコラボ事業参加事業者数 7社) ・丹後織物企業等への経営支援(設備投資等支援件数152件/白生地生産数量310,271反)
	「丹後・知恵のものづくりパーク」の技術支援・人材育成の拠点化	<ul style="list-style-type: none"> ・技術相談等を通じた在職者の人材育成を実施(4,799人) ・企業ニーズ等を反映した各種研修会、講習会、研究会等の開催(3,318人)
	丹後ちりめん等織物業や機械金属業の振興と「新丹後ブランド化」	<ul style="list-style-type: none"> ・『丹後職人工房』の開設やインテリア等を含む丹後織物ブランドの製品開発等を支援(39企業) ・大消費地での展示商談会の開催による丹後ブランドの販路拡大を支援(21回) ・繊維強化プラスチック等の実用化研究や試作を企業と共同して推進(10件) ・伝統産業生産基盤支援制度を活用した経営支援(152件) ・海外でも受け入れられる新たな商品開発、海外への販路開拓を支援(6社)
	地域産業を担う人づくり・就業支援・若者の定着・定住対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・北京都ジョブパークと連携したU・Iターンの促進(U・Iターン就業者数165人) ・移住促進条例の施行を契機に、京都移住コンシェルジュ等と連携を図り、移住・定住を促進
産業振興の基盤となる道路整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・国道178号等の整備を推進(改良事業・防災事業ともに全工区の事業促進) ・国道482号(弥栄工区)供用開始 ・大宮岩滝線(ICアクセス)供用開始 	
③ 環境と文化の伝承	山陰海岸ジオパークや天橋立等丹後地域ならではの自然環境・文化の保全と発信	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタカー活用による山陰海岸ジオパークエリア内の周遊促進事業を実施 ・山陰海岸ジオパークの道路案内標識を設置(5箇所) ・天橋立の世界遺産登録をめざし、松並木保全活動や海岸清掃を実施
	丹後地域の豊かな自然環境を守り育てる取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の森林を地域で支えるモデルフォレスト運動の取組を推進(8地区/950人) ・海岸松林の整備と再生(整備面積:18.3ha)を推進 ・府内産木材の利用を拡大(緑の交付金制度利用449m3、間伐材の搬出3,518m3) ・健全な森林を育成するための森林経営計画の策定指導(樹立面積:47ha) ・大学生ボランティアと協働したカキ殻回収の実施など阿蘇海環境改善を図る取組を実施 ・漂着ゴミの回収、適正処理の実施(28箇所) ・不法投棄監視指導員による海岸、河川等の監視パトロール(195回)
	地域文化の伝承、スポーツ観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市町や各種団体が行う行祭事や文化イベントをフェイスブック等を活用し一体的に広報 ・地域の伝統芸能等の継承や後継者育成を補助金等により支援(5団体) ・TANTANロングライドの実施(参加者数1,527人)

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成28年度の主な取組と進捗状況
④ 災害対策の強化と安心・安全の構築	地域の実情に応じた防災・減災対策の推進	・市町と連携した防災訓練や防災講習会など、災害に強い丹後の人づくり事業の実施
	計画的な洪水・土砂災害・集中豪雨対策の推進	・加悦奥川大橋完成、福田川福田橋橋台1基完成、小西矢板護岸着手 ・砂防・地すべり事業(11箇所の内2箇所完了) ・急傾斜事業(8箇所の内2箇所工事着手) ・要適正管理森林等災害予防事業を実施(1件) ・予防治山事業を実施(5地区)
	地震・津波に備えた安心・安全の確保	・建築物の安心安全の確保、大規模地震に備えた住宅の耐震対策の推進(耐震診断25戸)(耐震改修11戸) ・市町と協力し、防災研修や図上防災訓練を実施
	雪に強い道路ネットワークの整備、原子力防災対策、老朽化したインフラ施設のへの対応	・国道482号(弥栄工区)供用開始 ・大宮岩滝線(ICアクセス)供用開始 ・国道482号(三宅橋)完了 ・内閣府・3府県及び関西広域連合合同原子力総合防災訓練の実施(8/27 丹波自然運動公園) ・漁港施設の老朽化対策(府営1漁港の老朽化診断)の実施
⑤ 府民安心のまちづくり	北部医療センターを核にした地域医療体制・医師派遣機能の充実・強化	・北部医療センターの医師派遣による地域医療体制の整備支援(派遣回数3,904回) ・京都府地域包括ケア構想(地域医療ビジョン)の策定
	「たんご健康長寿日本一」の推進、高齢者が安心して暮らせる地域づくり	・企業や団体の健康経営取組支援 事業所訪問(112事業所) きょうと健康づくり実践企業認証事業所制度の認証事業所(16事業所) 健康づくりに係る意識やニーズ調査実施(575事業所)及び報告会開催 企業等管理者への健康経営セミナー開催(1回)健康出前講座(6回) ・がん検診受診勧奨の取組の推進(受診促進キャンペーン実施4日875名)、生命のがん教育実施(9箇所) ・多職種協働による看取り家族交流会や若年性認知症相談会の開催(7回) ・地域リハビリテーションの支援体制強化に向けた研修会(8回)や出張講座(58回)の開催
	総合的な少子化対策、障害者の自立支援、自殺のないまちづくり	・子育て支援団体や企業と連携した子育て出前ひろば、相談会の開催(10回) ・産前産後ケア専門員・訪問支援員の活動支援(実践者交流会2回) ・子育て支援団体と連携した子育て支援の展開、子育て出前ひろばの開催(33回) ・ゲートキーパー研修(1,275人)、かかりつけ医うつ対応力研修、総合相談会の開催 ・メンタルヘルスの取組支援(10団体)、うつスクリーニングの実施(9回) ・障害者福祉サービス事業所の開設(1事業所) ・中・高校生を対象に「親」になるための子育て体験学習「将来の親」を実施(3校/16回) ・自殺やうつ病等に対する理解の促進を図るため小中学校で「いじめ予防教育」を実施(5校)
	生活困窮者等への支援、暮らしを取り巻く安心・安全の確保	・消費生活に関する被害の未然防止を図るための講座の実施(新規受講13団体) ・生活相談就労支援員による寄り添い支援(相談者29人) ・「与謝野町くらしとしごとの支援ネットワーク」による就労支援、子どもの貧困対策セミナー実施
⑥ 府民がいきいきと暮らせる地域づくり	地域カビジネス等新たな地域力再生活動への支援強化	・地域団体のビジネス活動を交付金(地域カビジネス)により支援(15団体) ・地域団体の幅広い活動を交付金(一般)やSNS等での情報発信により支援(延べ236団体) ・管内NPO団体等の交流を深めるイベント等を開催(91人参加)
	若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり	・小中高校生が丹後の多様な魅力について学ぶ「TANGO魅力伝え隊」を実施(9校) ・丹後にゆかりの著名人による講演・体験教室「丹後の子どもドリームプロジェクト」を開催(1回)
	地域を担う人づくり、命の里の再生とふるさと保全・農村再生活動	・共に育む「命の里」事業により、農村集落の再生活動を支援(6地区) ・一村一業により地域活性化を図る明日の京都村づくり事業を支援(2地区) ・農村集落への移住・定住促進のため、空家改修を支援(20件) ・農林漁業体験民宿の開設支援(1件) ・棚田や農山村の大切さを子供たちに体験してもらうイベントを実施(31回)
	より利用しやすい公共交通ネットワークの実現	・丹鉄の特急車両リニューアル等、利用促進に向けた取組を推進 ・駅舎の広場整備・トイレ改修による利便性の向上やマルシェ等による駅舎有効活用の促進

(3) 数値目標に対する施策指標の進捗状況

施策指標	進捗率 (%)	進捗率グラフ				
		0%	25%	50%	75%	100%
地域振興計画						
丹後						
1 丹後地域を訪れる観光入込客数	50.9					
2 観光客の一人当たり消費額	-1.6					
3 名神高速道路から北部への移動にかかる所要時間(大山崎JCT～京丹後大宮IC)	100.0					
4 丹後産コシヒカリの食味ランキング	—					
5 農商工連携取組支援件数	80.0					
6 ブランド水産物の販売額(丹後とり貝、丹後ぐじ 中丹地域を含む)	127.9					
7 新たな中核的農家の育成数	35.0					
8 漁業における新規就業者数(中丹地域を含む)	233.3					
9 中小企業による経営革新等の取組支援件数	55.0					
10 経営問題等に係るサポート件数	40.0					
11 「丹後・知恵のものづくりパーク」における技術相談や人材育成を通じた企業支援件数	72.2					
12 丹後地域へのU・Iターン就業者数	470.6					
13 山陰海岸ジオパークの「世界ジオパークネットワーク」再認定	—					
14 海岸松林の保全・整備面積	33.3					
15 土砂災害防止法による土砂災害警戒区域等の指定箇所の割合	100.0					
16 新たな津波浸水区域を踏まえた市町防災計画の見直し支援対象数	100					
17 がん検診を受診する人の割合(胃がん)	10.0					
18 がん検診を受診する人の割合(肺がん)	-47.1					
19 がん検診を受診する人の割合(大腸がん)	38.0					
20 がん検診を受診する人の割合(子宮がん)	178.9					
21 がん検診を受診する人の割合(乳がん)	393.3					
22 ゲートキーパー養成数	143.6					
23 認知症サポーター養成数	387.4					
24 地域力再生交付金や協働コーディネーターとの連携などによる地域力再生活動に取り組む団体数	125.0					
25 京都丹後鉄道利用人数	-35.7					

※ 基準値からの増減を目標とする指標等進捗率が表せない指標については、進捗率欄及び進捗率グラフ欄は「—」としている。

(4) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2016年9月] の「今後の課題」について、29年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

丹後地域振興計画

今後の課題	主な事業等
(1) 丹後地域の活性化を牽引する観光振興	
☆「海の京都」の取組促進による滞在交流型の観光地域づくり ☆観光との連携による食関連産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・若者による新たな視点「隠れた魅力発掘プロジェクト事業」 ・丹後グルメフェスティバル開催事業 ・丹後王国ハブにした丹後製品の物流整備事業 ・山陰海岸ジオパーク推進事業
(2) ものづくり産業等地域産業の振興	
☆「丹後・知恵のものづくりパーク」の充実とU・Iターンの促進 ☆「丹後ちりめん創業300年」に向けた丹後ブランドの発信	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後移住サポート事業 ・丹後企業力パワーアップ事業 ・丹後半島ブランド価値発掘・交流促進事業 ・「丹後ちりめん創業300年」を契機とした地場産業振興事業
(3) 府民生活の安心・安全の確保	
☆地域の実情に応じた防災対策の推進と医療・介護・福祉の更なる充実 ☆生活習慣病の発症・重病化予防の推進 ☆若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い丹後の人づくり事業 ・「健康長寿の丹後」プロジェクト事業 ・丹後地域介護職イメージアップ戦略事業 ・美しい阿蘇海を未来につなぐ事業 ・「たんごアート&デザインプロジェクト事業」 ・明日を担う「丹後の人」育成事業 ・次世代につなぐ自然との共生事業

京都市域主要施策・事業

京都府が京都市域において展開する主要施策・事業に係る 2016 年度の実施状況をまとめる。

【府民安心の再構築】

(1) 子育て・子育ての安心

- 京都市や警察、学校、家庭裁判所等と連携し、非行等の問題を抱える少年をサポートする「立ち直り支援チーム（ユース・アシスト）」により少年一人ひとりに適した支援プログラムを実施
- きょうと婚活応援センターにおいて、婚活支援団体や婚活マスター等と連携し、結婚を希望する独身者の婚活を応援
- 妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援を行う「きょうと子育てピアサポートセンター」を開設

(2) 学びの安心

- 一人ひとりの児童生徒に確かな学力を定着させるため、小学校 1、2 年生で 35 人学級を実施するなど京都式少人数教育を実施
- 京都大学をはじめとする大学等と連携し、大学教授等による出前学習、数学グランプリ、物理グランプリ、教員養成サポートセミナー等を実施

(3) 働きの安心

- 京都ジョブパーク内に国と府が一体となって学生等の就職支援をワンストップで行う学生就職センターや、障害のある方に適した仕事の創出や定着支援に関する個別相談等企業を総合的に支援する京都障害者雇用企業サポートセンターを設置するなど、府民の就業を支援
- オール京都体制で運営する女性活躍支援拠点「京都ウィメンズベース」を中心に、企業における女性の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進を支援

(4) 医療・福祉の安心

- 最先端陽子線がん治療に係る人材の育成（府立医科大学）
- 府立医科大学附属病院と地域の医療機関、かかりつけ医の連携を強化する仕組みの構築
- 義足や内部障害の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が援助を得やすくなるよう、「ヘルプマーク」の配布を開始

(5) 長寿の安心

- 「京都地域包括ケア推進機構」を構成する各専門分野の団体間の連携・協働を促進し、市町村等における地域包括ケアの取組を支援
- 在宅療養患者の生活を支援するため、多職種（かかりつけ医や訪問看護師、介護支援専門員など）が医療・介護情報を共有する在宅医療・介護情報連携システム「京あんしんネット」の運用を開始

(6) 暮らしの安心

- 七条警察署跡に「運転免許更新センター」を建設、併せて「地域防犯ステーション」を設置
- 府民協働防犯ステーションと連携した高齢者等の消費者被害の防止活動の実施

- 府立学校の耐震補強工事等を実施（桂高校ほか）
- 鴨川の治水対策として大規模水害対策等工事を実施
- 治水対策の推進（天神川上流）土砂災害対策工事（花尻川）の実施
- 京都競馬場、伏見港公園、京都第一赤十字病院等において国・京都府・京都市の主催により、国民保護共同実動訓練を実施
- 予測型犯罪防御システムの運用を開始し、先制的な防止・検挙活動を推進

【地域共生の実現】

（１）人権尊重

- 国、人権擁護委員連合会、NPO法人等と連携・協働し、「京都ヒューマンフェスタ 2016」（京都テルサ）を開催

（２）地域力再生

- 府庁内の「ソーシャル・ビジネスセンター」において、ビジネス的手法により地域課題の解決を図る地域力ビジネス（京都式ソーシャル・ビジネス）を支援
- 府民公募型整備事業を実施（鴨川、鴨川公園ほか）
- 京都府地域力再生プロジェクト支援事業を実施
- 府庁 NPO パートナーシップセンターにおいて、NPO と行政、NPO 相互の協働・連携を支援

（３）新たなコミュニティづくり

- 商店街創生センターにおいて、厳しい環境下にある商店街等にきめ細やかな支援を実施
- コミュニティの活動拠点となる既設府営住宅集会所の改修等
- 「アートと交流」をテーマとした堀川団地の再生と伝統産業の新たな展開を推進するため、「堀川アート&クラフトファクトリー」の整備事業に着手

（４）男女共同参画

- 京都テルサ内の京都ジョブパークマザーズジョブカフェにおいて、女性の子育てと就業をワンストップで支援
- 企業における女性の活躍を重点的に支援するため、女性活躍推進拠点「京都ウィメンズベース」を開設
- 京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター（京都SARA）において、行政、医療機関、警察等の関係機関と連携し、性暴力の被害を受けた方へ、被害直後から中長期にわたる総合的な支援を実施

（５）ふるさと定住

- 里の仕事人による伴走支援等地域の課題解決の取組を共に育む『命の里』事業により実施（左京区北部地区ほか）
- 京都ジョブパークと連携し、空家・農地情報発信ポータルサイトを開設
- 「第一種特定鳥獣保護計画-ツキノワグマ-(第4期)」に基づきツキノワグマ対策を実施

【京都力の発揮】

(1) 人づくり

- 京都高等技術専門校（伏見区）や「京都・新卒就職応援セミナー」の開催等により府内企業への就業者を育成・確保
- 次世代のコンテンツ産業や映画コンテンツ産業、ものづくり産業に係る人材育成
- 大学との連携による観光人材の育成、京都産業 21 と連携した観光関連企業の経営支援

(2) 環境の「みやこ」

- 国立京都国際会館において「KYOTO地球環境の殿堂」を推進（新たな殿堂入り3名）
- 「千年の都・鴨川清流プラン」に基づき、出水等により顕著に堆積した箇所の中州の除去、納涼床の許可審査基準への適合の指導、鴨川ギャラリー事業の実施
- 鴨川公園葵地区の整備を推進
- 「京都産業 EMS 推進本部」を設置。専門家を配置し、中小企業等からのエコ・エネ化、省エネ化に関する相談や問い合わせにワンストップで対応
- 府内の優れた自然環境を保全するため、NPO や地域団体等と連携し「自然環境保全京都府ネットワーク」を立ち上げ、総会及びシンポジウムを開催

(3) 文化創造

- 京都学・歴彩館をグランドオープン、京都の歴史、文化に関する活動を推進し、国内外の大学や研究機関との研究ネットワークを構築
- 府立大学における和食文化高等教育機関の設置準備を推進
- 府立植物園の魅力向上に向けた基盤整備（北泉門竣工）
- 「第5回全国高校生伝統文化フェスティバル」を開催（京都コンサートホール）
- 伊藤若冲生誕 300 年記念事業の開催（資料館・京都府立植物園）
- 森の京都博の一環である「森の芸術祭」として、「生涯学習の成果の発表や森の美術展、けいほくクラフト等を開催（京都府立ゼミナールハウス）
- 東京オリンピック・パラリンピック 2020 に向け、文化振興の機運を高めるため、スポーツ・文化・ワールド・フォーラムを開催

(4) 産業革新・中小企業育成

- 府と京都市が協調して中小企業融資制度の利用促進を図り、中小企業の経営改善を支援
- 京都経済センター（仮称）の建設に着手
- 西陣織、京友禅等、伝統産業の分業体制の維持・再構築の支援
- 京都総合観光案内所の観光案内のほか、観光情報発信等、京都花灯路、京の七夕等の観光事業を府市協調で運営
- ターゲットイヤーである「森の京都」において、プレイベントや関連事業による府内外への情報発信や府民交流を実施（京都市右京区京北地域）

(5) 交流連帯

- 鉄道駅の利便性・安全性の向上整備（阪急上桂駅、西院駅）
- JR奈良線複線化工事の着手、京都駅設備改良完了・供用開始